



ヘルメスの翼に

—小樽商科大学 F D 活動報告書—

第 16 集

目 次

まえがき

部門長挨拶

第 1 章 商学部

令和 5 年度「授業改善のためのアンケート」集計結果報告

第 2 章 大学院商学研究科（現代商学専攻）

令和 5 年度 大学院 F D アンケート集計結果報告

第 3 章 大学院商学研究科（アントレプレナーシップ専攻）

令和 5 年度「授業評価アンケート」集計結果と分析

第 4 章 令和 5 年度 C G S 教育支援部門の活動状況

令和 5 年度 C G S 教育支援部門スタッフ一覧

まえがき

本報告書「ヘルメスの翼に―小樽商科大学FD活動報告書―第16集」は、令和5年度におけるグローバル戦略推進センター教育支援部門のFD活動をまとめたものです。

本学におけるFD活動は、平成12年度より教育課程改善委員会のもとに設置されたFD専門部会を実施主体として活動をしてきました。その後、本学におけるFD活動を組織的に展開するために、教育課程改善委員会を発展的に解消しその機能を継承する教育開発センターが平成16年4月に設置されました。

平成19年度に教育開発センターの組織が改編され、FD活動は、学部におけるFD活動を「学部教育開発部門」が、大学院現代商学専攻におけるFD活動を「大学院教育開発部門」が、また、ビジネススクール（専門職大学院）である大学院アントレプレナーシップ専攻におけるFD活動は「専門職大学院教育開発部門」が実施主体となり展開されています。

FD活動を通じてより質の高い教育を実現するために、本学教職員、学生、関係者の忌憚のないご意見を教育支援部門にいただければ幸いです。

本報告書の表題「ヘルメスの翼に」は、本学の学章（シンボルマーク）「ヘルメスの翼に一星」から取ったものです。本学ホームページによると、学章について次のように説明されています。

この学章「ヘルメスの翼に一星」は、商業神ヘルメスの翼の上にある一星が、北の大地から英知の光を放つ様子をあらわしたものです。下のリボンには、1910年の創立と Otaru University of Commerce の頭文字が示されています。

ヘルメス(Hermes)は、ギリシャ神話の神の一人で伝令の神、また商業、学術などの神とされています。ローマではマーキュリー(Mercury)と呼ばれています。ヘルメスは2匹の蛇がからみついた翼の杖をもち、伝令の神として世界を飛翔しています。一星は、本学の前身である小樽高等商業学校以来、本学のシンボルとして用いられてきました。「北に一星あり。小なれどその輝光強し。」と謳われた本学の伝統を象徴しています。

FD活動を通じてより質の高い教育が実現でき、それによってヘルメスの翼に輝く一星がより強く光り輝くことを願って、本報告書の表題を「ヘルメスの翼に」としました。

本報告書は「学部教育開発専門部会」、「大学院教育開発専門部会」及び「専門職大学院教育開発専門部会」が中心となって作成したものです。どうぞご覧ください。

令和6年7月

目 次

まえがき

第1章 商学部におけるFD活動

令和5年度 「授業改善のためのアンケート」集計結果報告……………3

1. 調査の概要
2. 授業改善のためのアンケート調査結果
3. 自由記述

第2章 大学院商学研究科現代商学専攻におけるFD活動

令和5年度 大学院FDアンケート集計結果報告……………8

- 博士前期課程学生対象(調査の概要、集計結果)
- 博士後期課程学生対象(調査の概要、集計結果)

第3章 大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻におけるFD活動

令和5年度 「授業評価アンケート」集計結果と分析……………19

1. はじめに
2. アンケートの概要
3. アンケートの分析
4. 各科目の成績分布
5. 各科目の集計結果
6. まとめ

授業評価アンケート結果を踏まえた自己評価(令和4年度後期科目、令和5年度前期科目)

第4章 令和5年度CGS教育支援部門の活動状況……………45

- 令和5年度CGS教育支援部門の活動内容
- 令和5年度FD講演会
- 令和5年度CGS教育支援部門スタッフ一覧

第1章 商学部

令和5年度「授業改善のためのアンケート」 集計結果報告

令和5年度「授業改善のためのアンケート」集計結果報告

1. 調査の概要

1.1. 調査の目的

本学の授業の改善活動の一環として、履修者による授業改善アンケートを実施する。アンケート調査は、グローバル戦略推進センター教育支援部門学部教育開発専門部会で実施する。アンケート調査の実施後は、学部教育開発専門部会で集計・分析し、本学のFD活動報告書「ヘルメスの翼に」およびグローバル戦略推進センター教育支援部門のwebサイト上で公表する。ただし、集計したデータは授業科目が特定されるような公表は行わず、授業改善以外の目的には使用しない。

1.2. 調査の方法

「令和5年度前期『授業改善のためのアンケート』実施要領」(図1)および「令和5年度後期『授業改善のためのアンケート』実施要領」(図2)にしたがい、表1の項目について調査を実施する。Q1からQ5は単項選択による回答形式とし、「1. 全くそう思わない」「2. そう思わない」「3. どちらともいえない」「4. そう思う」「5. とてもそう思う」の5件法で調査する。回答結果は、1～5点に得点化した後、集計を行う。Q6は自由記述による回答形式とする。

1.3. 実施科目

令和5年度の開講科目のうち、以下の科目を除いた科目を対象とする。なお、非常勤講師担当の科目は担当教員へ協力依頼を行い、その同意のうえ実施するものとする。

実施しない科目（※ただし担当教員の希望があれば実施する）

1. 研究指導、卒業論文（夜間主）
2. 教育実習に係る科目
3. 日本語科目
4. 社会連携実践Ⅰ～Ⅲ
5. アジア・オセアニア事情、ヨーロッパ事情、アメリカ事情
6. 履修者が10名以下の科目（基礎ゼミナールを除く）

1.4. 実施の方法と期間

学習支援システム（namaba）の授業アンケート機能を利用して実施し、学生は1科目につき1回（クラスのある科目については、1クラスにつき1回）回答を行う。

前期科目

令和5年7月18日（火）～8月9日（水）

夏季集中科目

令和5年8月17日（木）～9月20日（水）

後期科目

令和6年1月9日（火）～2月6日（火）

1.5. 質問項目

表 1-1: 授業改善のためのアンケート 質問項目

設問

設問 1 この科目のシラバス（方法・目的、達成目標、内容など）は適切であったと思いますか。

設問 2 この科目を深く理解できたと思いますか。

設問 3 授業に関する連絡、講義資料の提示・配布は適切であったと思いますか。

設問 4 教員や他の学生とのやりとりは、あなたにとって十分なものであったと思いますか。

設問 5 授業形式（対面、オンラインなどの受講形態）は、あなたにとって適切であったと思いますか。

設問 6 この授業について、「良かった点」、「改善すべき点」があれば、具体的にお書きください。

2. 授業改善のためのアンケート調査結果

2.1. 実施状況

本学では、授業改善のためのアンケート調査結果は科目ごとに集計されており、その結果は授業を担当した各教員へフィードバックされている。ここでは、授業改善のためのアンケート調査結果に関して本学全体の概要と動向を報告する。

本学では、授業改善のためのアンケート調査結果は科目ごとに集計されており、その結果は、授業を担当した各教員へフィードバックされている。ここでは、授業改善のためのアンケート調査結果に関して、本学全体の概要と動向を報告する。

表 2-1 は、アンケートの対象科目数・対象者数および回答状況である。今年度の調査対象科目数は 468 科目（前期 268 科目、後期 200 科目）であり、すべての対象科目において調査が実施されている。全履修者数は 32,729 名、うち回答者数は 7,238 名、全体の回収率は 22.1%（前年度 25.2%）であった。回収率は前年度から 3.1 ポイント低下している。

表 2-1: アンケートの対象科目数・対象者数および回答状況

学期	対象科目	履修者数	回答者数	回答率
前期	268	17,746	4,181	23.6%
後期	200	14,983	3,057	20.4%
全体	468	32,729	7,238	22.1%

2.2. 回答の集計結果

表 2-2 は、各質問項目における平均値および標準偏差である。図 2-1 は、各質問項目における回答の割合と平均値のグラフである。図中のマーカー（点）は平均値を示している。各設問とも、平均値は 4.0～4.4 程度、回答割合における「とてもそう思う」「そう思う」の合計割合は割を超えており、概ね問題なく履修できているといえる。

表 2-2: 授業改善アンケートの各質問項目における平均値および標準偏差

質問項目	前期		後期		全体	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
設問 1 シラバスの適切さ	4.40	0.77	4.29	0.78	4.35	0.78
設問 2 科目の理解	4.14	0.88	3.99	0.91	4.07	0.90
設問 3 連絡、資料提示・配布	4.35	0.86	4.22	0.90	4.30	0.88
設問 4 教員や学生とのやりとり	4.19	0.95	4.05	0.97	4.13	0.96
設問 5 授業形式の適切さ	4.39	0.88	4.36	0.84	4.38	0.86

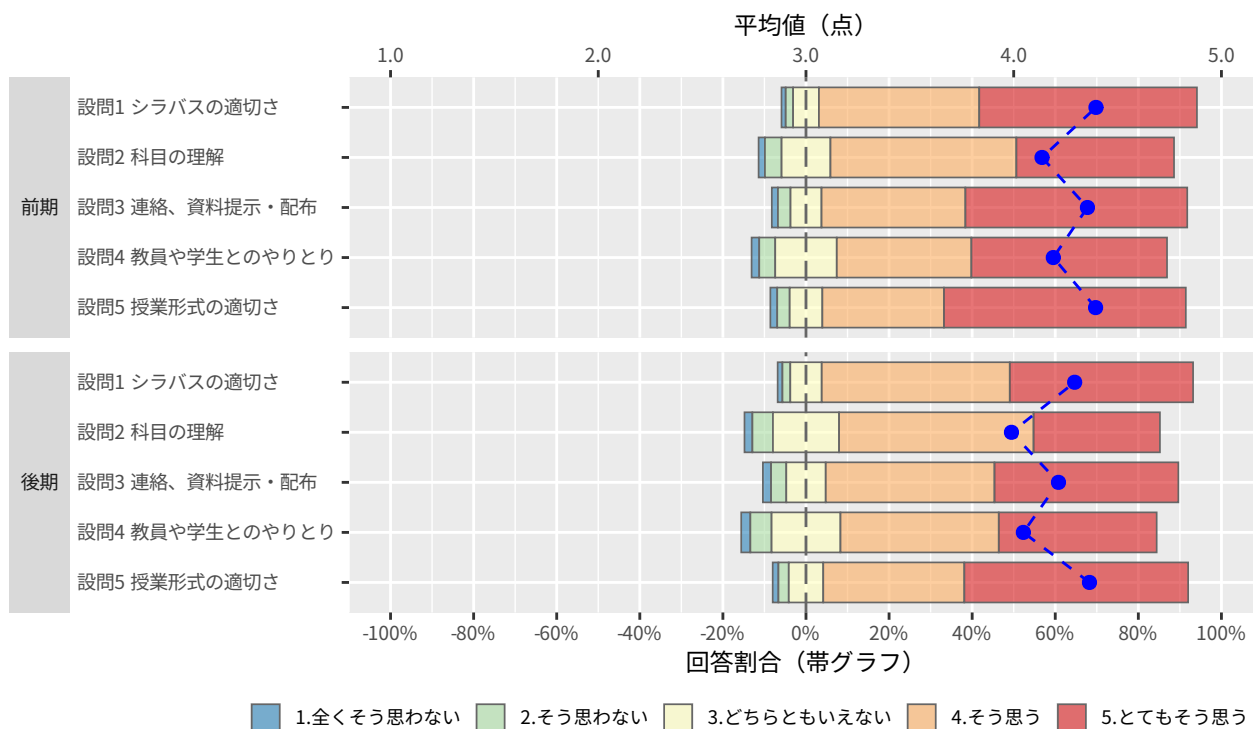


図 2-1: 回答の割合と平均値

3. 自由記述

質問項目の「Q6. この授業について、「良かった点」、「改善すべき点」があれば、具体的にお書きください。」では、自由記述による回答を求めた。今年度の授業改善アンケートに回答した 7,238 名のうち、1,764 名 (24.4%) から自由記述の回答を得た (「特になし」「問題なし」などの回答を除く)。自由記述の回答結果については、ユーザーローカル AI テキストマイニングによる分析 (<https://textmining.userlocal.jp/>) を行った。図 3-2 は、自由記述 (年間) のワードクラウドであり、単語の重要度が高いものについて大きく示されている。青色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞、灰色が感動詞を表している。図 3-2 は、出現単語の頻出度について、前期、後期で比較した結果である。表 3-1 は単語の出現頻度 (年間の上位 150) の結果である。

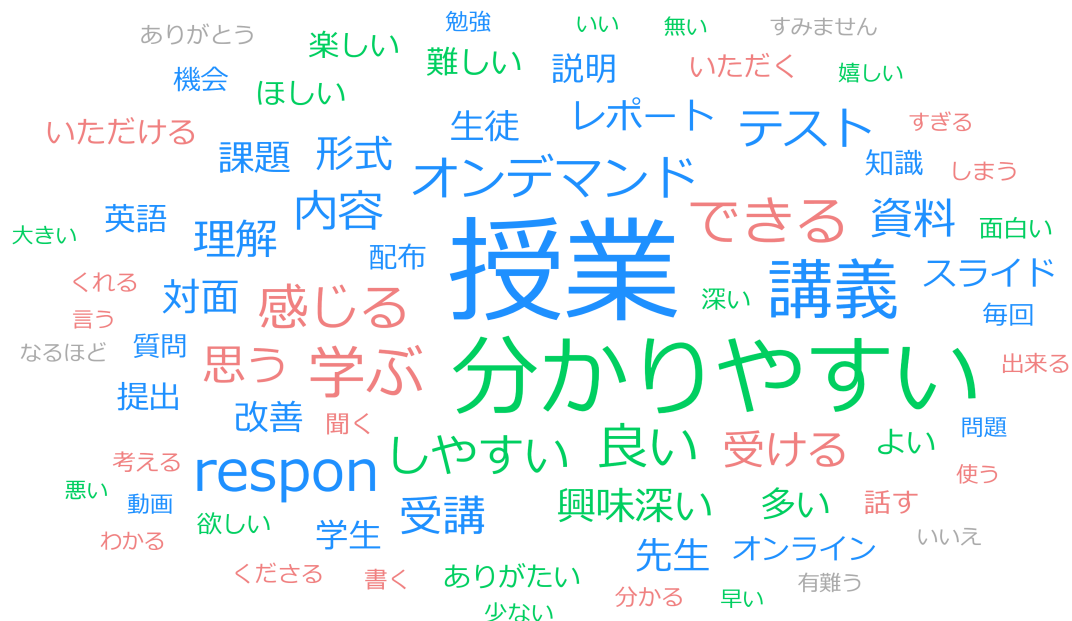


図 3-1: 令和 5 年度 年間

R5前期にだけ出現	R5前期によく出る	両方によく出る	R5後期によく出る	R5後期にだけ出現
有難う 広い 聞きやすい いいえ すみません なるほど	楽しい 話す レポート 機会 嬉しい グループワーク 深める 意見 聞ける プレゼン 触れる ディスカッション すごい つける 見やすい 入る 細かい 遅い 厳しい	ありがとう 良い 授業 できる 思う 感じる 分かりやすい 多い よい 講義 ほしい 内容 先生 テスト 理解 学ぶ 難しい 受ける 欲しい くれる しやすい 面白い いい しまう 聞く いただく 課題 資料 くださる 説明	respon 早い 悪い 回答 zoom 教員 短い 連絡 教科書 集中 つながる 優しい 速い 取り組みやすい わかりづらい 有難い	ふさわしい 寒い

図 3-2: 単語分類

表 3-1: 単語の出現頻度

順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	授業	941	51	オンライン	73	101	深い	36
2	できる	571	52	スライド	72	102	興味	35
3	思う	540	53	動画	72	103	履修	34
4	良い	495	54	すぎる	72	104	確認	34
5	講義	317	55	配布	71	105	コミュニケーション	33
6	感じる	277	56	manaba	70	106	企業	33
7	内容	262	57	解説	68	107	嬉しい	33
8	先生	261	58	いただける	68	108	分析	32
9	テスト	253	59	非常	67	109	身	32
10	理解	232	60	レジュメ	66	110	読む	32
11	分かりやすい	210	61	考える	66	111	少ない	32
12	多い	195	62	大変	65	112	公開	31
13	よい	191	63	使う	65	113	発表	31
14	楽しい	178	64	書く	64	114	最初	31
15	ありがとう	169	65	グループワーク	63	115	最後	31
16	ほしい	156	66	わかる	61	116	答える	31
17	課題	148	67	分かる	59	117	取る	31
18	資料	145	68	言う	59	118	違う	31
19	学ぶ	144	69	教える	58	119	終わる	31
20	説明	137	70	行う	58	120	無い	31
21	受ける	128	71	ありがたい	58	121	様々	30
22	英語	123	72	復習	56	122	感想	30
23	学生	122	73	丁寧	56	123	つく	30
24	レポート	114	74	部分	56	124	持つ	30
25	難しい	112	75	知る	56	125	悪い	30
26	改善	110	76	回答	53	126	期末テスト	29
27	くれる	109	77	意見	52	127	学習	29
28	欲しい	105	78	学べる	52	128	お話	29
29	対面	100	79	zoom	49	129	必要	29
30	オンデマンド	98	80	いく	49	130	class	28
31	機会	98	81	プレゼン	47	131	教授	28
32	しまう	96	82	ディスカッション	46	132	成績	28
33	聞く	95	83	教員	46	133	方法	28
34	形式	93	84	出す	45	134	聞ける	28
35	いただく	92	85	後半	43	135	とる	28
36	生徒	91	86	連絡	42	136	プリント	27
37	問題	91	87	助かる	42	137	テーマ	27
38	面白い	91	88	興味深い	42	138	対応	27
39	毎回	90	89	出席	40	139	参加	27
40	勉強	89	90	発言	40	140	触れる	27
41	しやすい	89	91	半年	39	141	おる	27
42	質問	86	92	評価	39	142	見る	27
43	くださる	86	93	教科書	38	143	簿記	26
44	いい	86	94	i	38	144	教室	26
45	提出	84	95	集中	38	145	グループ	26
46	話す	83	96	早い	38	146	解答	25
47	受講	82	97	おかげ	37	147	ゼミ	25
48	知識	81	98	上	36	148	個人	25
49	respon	76	99	深める	36	149	大学	25
50	出来る	75	100	深まる	36	150	大きい	25

第2章 大学院商学研究科(現代商学専攻)

令和5年度 大学院FDアンケート集計結果報告

令和5年度 大学院 FD アンケート集計結果報告 【博士前期課程学生対象】

1. 令和5年度 大学院生対象調査の概要

1.1. 目的

大学院現代商学専攻博士前期課程の教育課程（カリキュラム）及び教育支援体制に関して幅広く学生から意見等を聴取し、今後の大学院指導に資することを目的として実施する。

1.2. 対象者

現代商学専攻博士前期課程に在籍する学生

1.3. 実施時期

2023年10月31日（火）～11月17日（金）

1.4. 実施方法

対象者に、WEB アンケートシステムからメールで依頼し、回答してもらう。

1.5. 集計結果

アンケートの集計・分析は、大学院教育開発専門部会で行い公表する。本アンケート調査は、数量調査（5件法）と自由記述から構成されている。数量調査に関しては、数値が大きいほど高評価を示している。

1.6. 回答状況

対象者数は11名のうち11名から回答が得られ、回収率は100.0%であった。

2. 集計結果

2.1. あなた自身にとって興味深い科目が開講されている

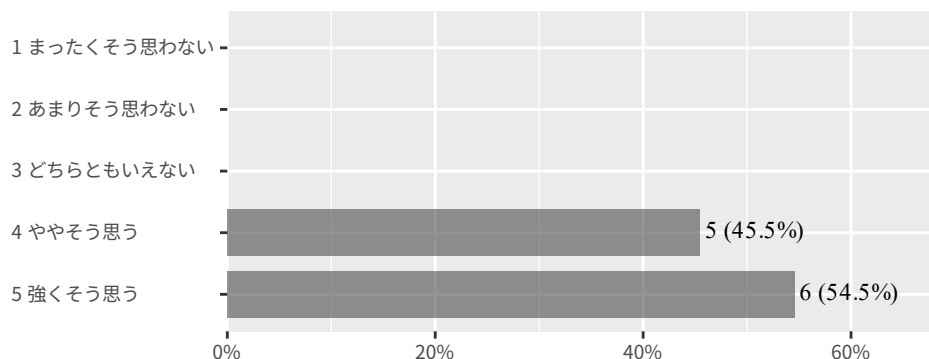


図 2-1: 「あなた自身にとって興味深い科目が開講されている」の回答

2.2. 幅広い内容にわたって科目を選択することができる

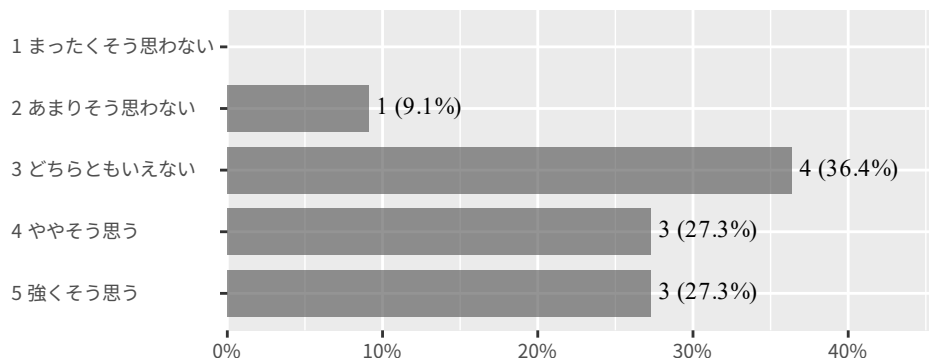


図 2-2: 「幅広い内容にわたって科目を選択することができる」の回答

2.3. 履修科目を決定する際シラバスが参考になった

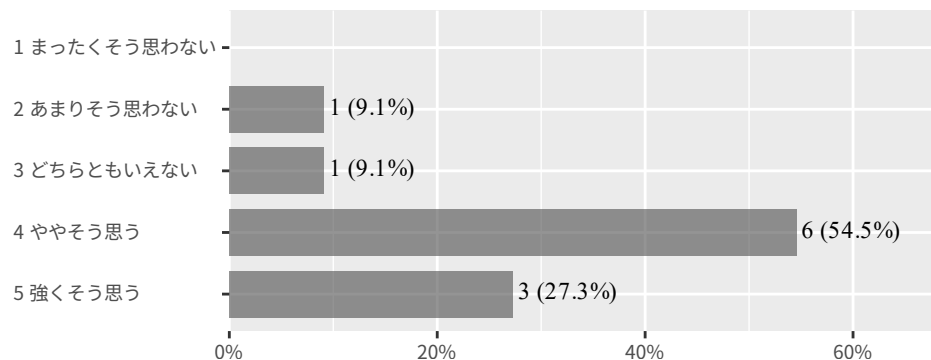


図 2-3: 「履修科目を決定する際シラバスが参考になった」の回答

2.4. 大学院に期待していた通りの知識や技能を獲得できた

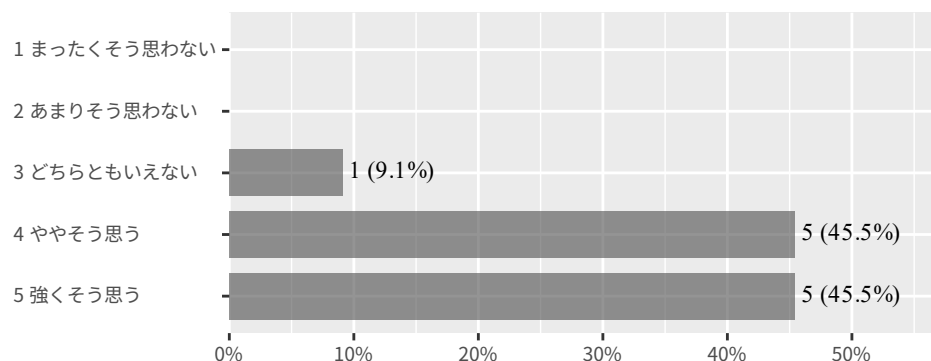


図 2-4: 「大学院に期待していた通りの知識や技能を獲得できた」の回答

2.5. 修了に必要な「講義科目」の単位数は適切である

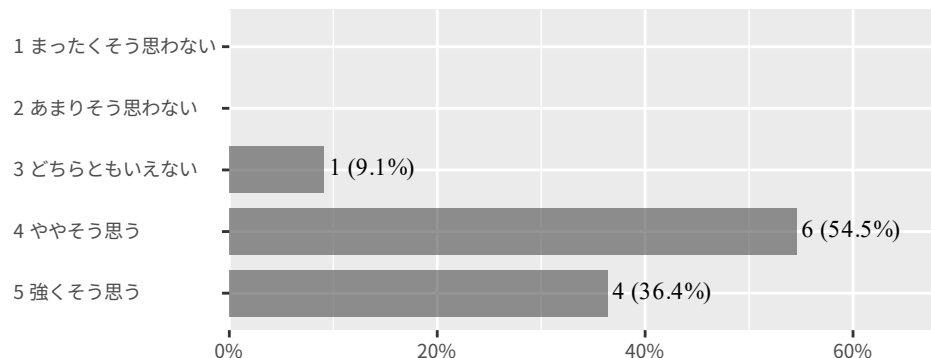


図 2-5: 「修了に必要な「講義科目」の単位数は適切である」の回答

2.6. 各項目の平均値

「強くそう思う」から「まったくそう思わない」までの5段階の選択肢に対して5点から1点を与え、その平均値を集計示す。

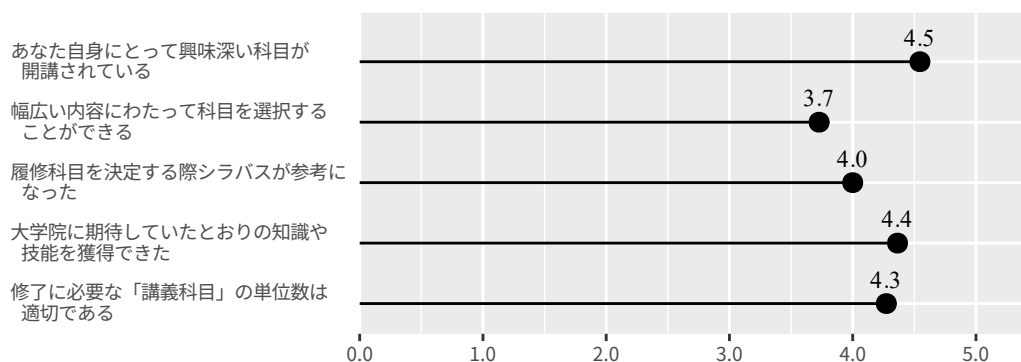


図 2-6: 各設問の平均値

2.7. 指導教員から十分な指導（研究指導・論文指導など）を受けている

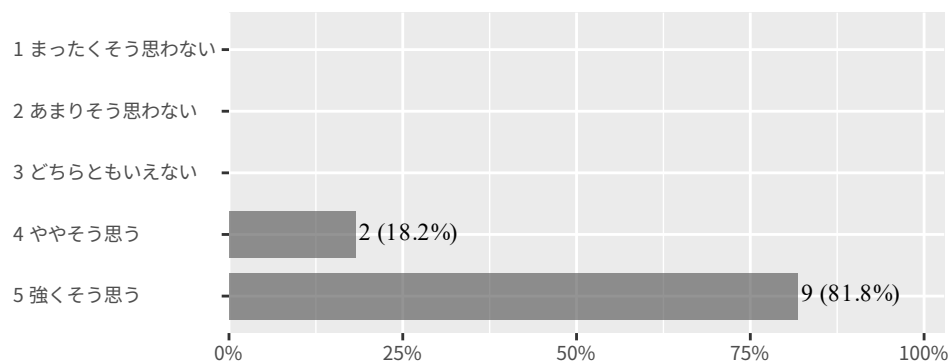


図 2-7: 「指導教員から十分な指導（研究指導・論文指導など）を受けている」の回答

2.8. 研究に必要な図書資料（書籍・論文）が十分に整備されている

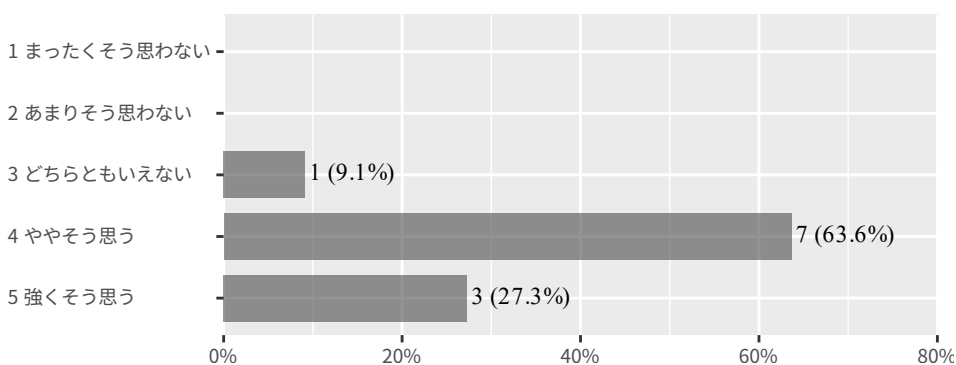


図 2-8: 「研究に必要な図書資料（書籍・論文）が十分に整備されている」の回答

2.9. 研究に必要な電子ジャーナル・データベースが十分に整備されている

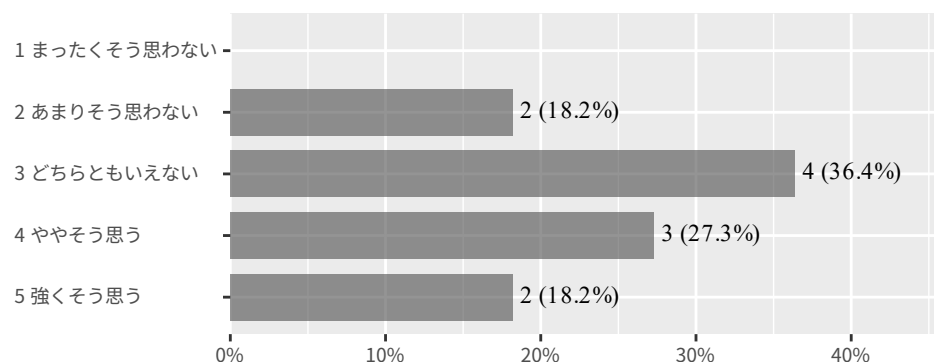


図 2-9: 「研究に必要な電子ジャーナル・データベースが十分に整備されている」の回答

2.10. 大学院生の共同研究室は研究活動に適した環境である

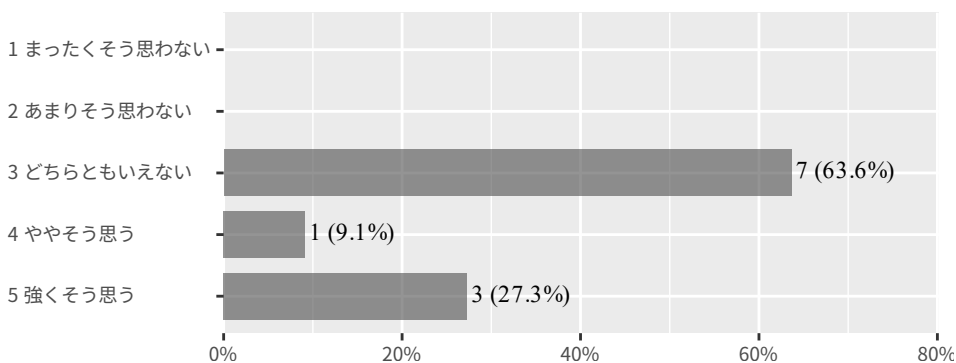


図 2-10: 「大学院生の共同研究室は研究活動に適した環境である」の回答

2.11. 学内設備（PC など）の利用環境が整っている

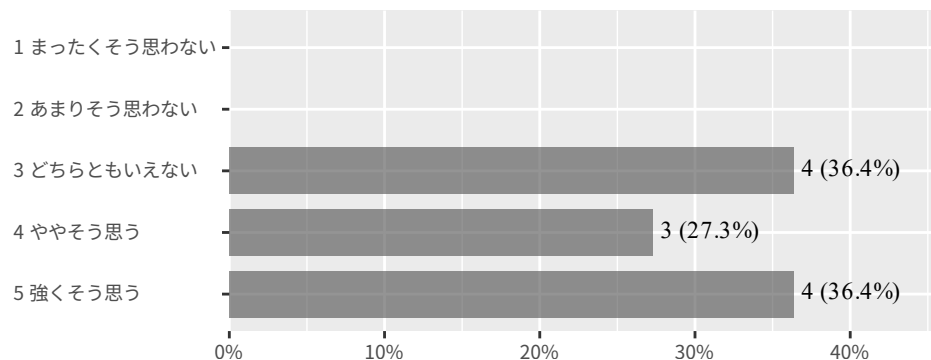


図 2-11: 「学内設備（PC など）の利用環境が整っている」の回答

2.12. 各項目の平均値

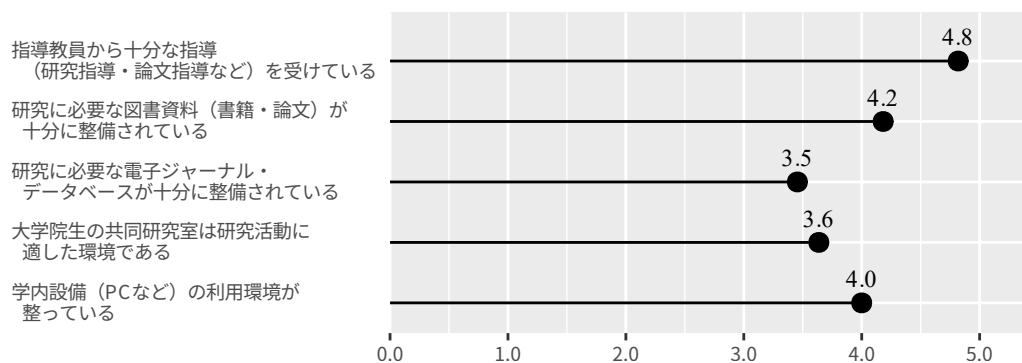


図 2-12: 各設問の平均値

2.13. 進路や経済支援など学生生活全般について相談できる環境がある

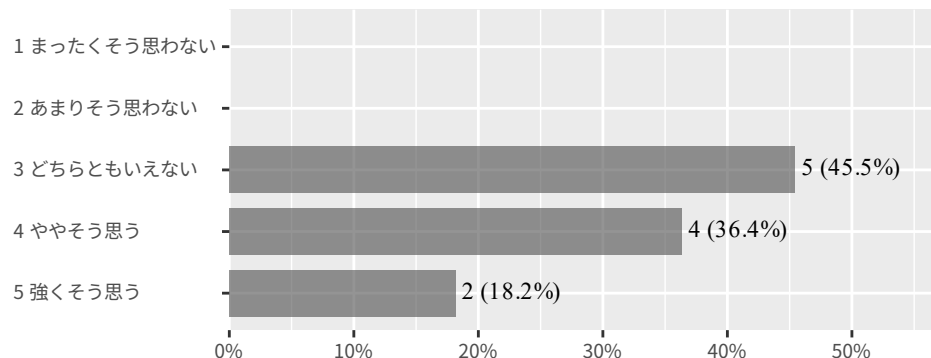


図 2-13: 「進路（就職活動を含む）や経済支援など学生生活全般について相談できる環境がある」の回答

2.14. 現在の大学院における学習活動に満足している

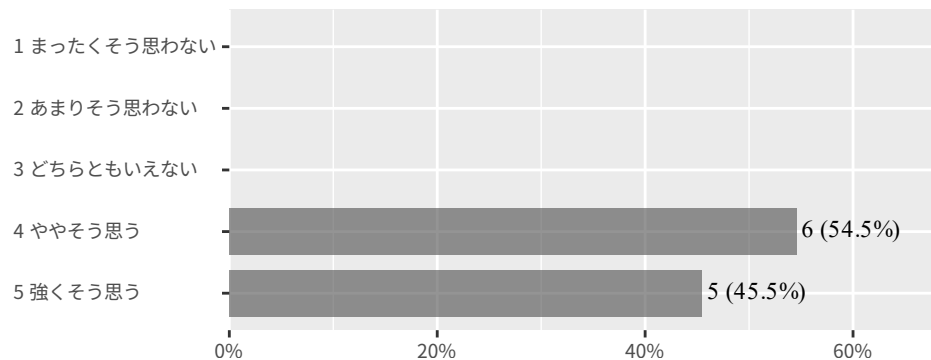


図 2-14: 「現在の大学院における学習活動に満足している」の回答

2.15. 各項目の平均値

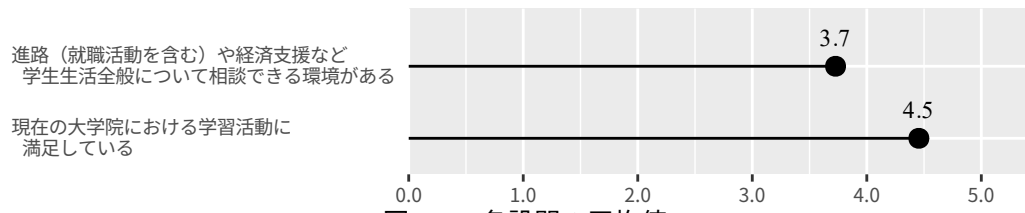


図 2-15: 各設問の平均値

2.16. 学内の講義や研究指導以外に研究会や勉強会に参加したことがある

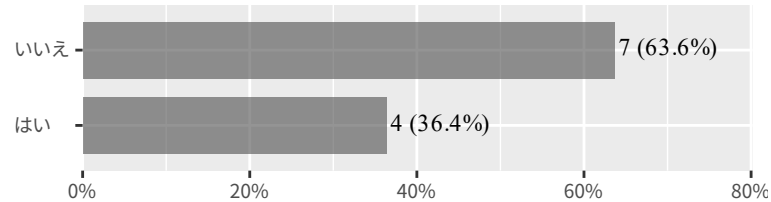


図 2-16: 「学内の講義や研究指導以外に研究会や勉強会に参加したことがある」の回答

令和5年度 大学院 FD アンケート集計結果報告 【博士後期課程学生対象】

1. 令和5年度 大学院生対象調査の概要

1.1. 目的

大学院現代商学専攻博士後期課程の教育課程（カリキュラム）及び教育支援体制に関して幅広く学生から意見等を聴取し、今後の大学院指導に資することを目的として実施する。

1.2. 対象者

現代商学専攻博士後期課程に在籍する学生

1.3. 実施時期

2023年10月31日（火）～11月17日（金）

1.4. 実施方法

対象者に、WEB アンケートシステムからメールで依頼し、回答してもらう。

1.5. 集計結果

アンケートの集計・分析は、大学院教育開発専門部会で行い公表する。本アンケート調査は、数量調査（5件法）と自由記述から構成されている。数量調査に関しては、数値が大きいほど高評価を示している。

1.6. 回答状況

対象者数は6名のうち6名から回答が得られ、回収率は100.0%であった。

2. 集計結果

2.1. あなた自身にとって興味深い科目が開講されている

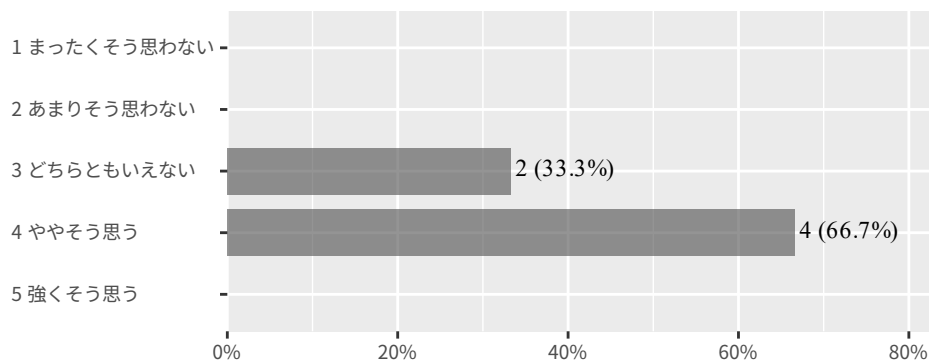


図 2-1: 「あなた自身にとって興味深い科目が開講されている」の回答

2.2. 幅広い内容にわたって科目を選択することができる

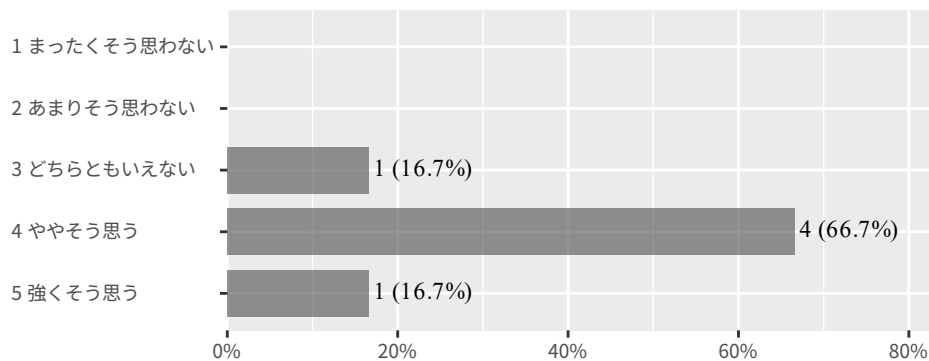


図 2-2: 「幅広い内容にわたって科目を選択することができる」の回答

2.3. 履修科目を決定する際シラバスが参考になった

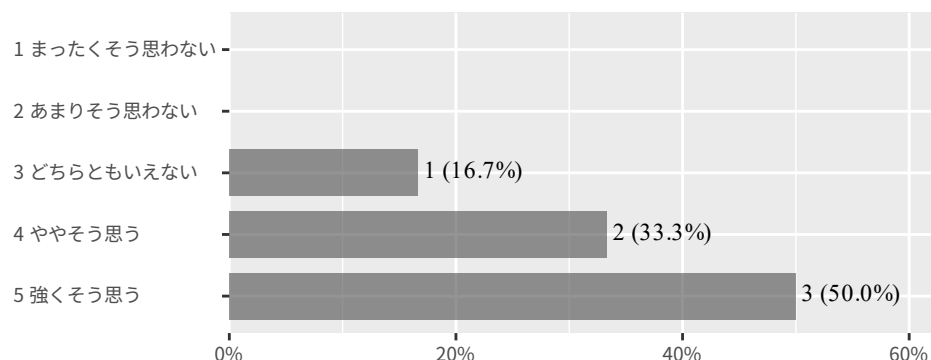


図 2-3: 「履修科目を決定する際シラバスが参考になった」の回答

2.4. 大学院に期待していた通りの知識や技能を獲得できた

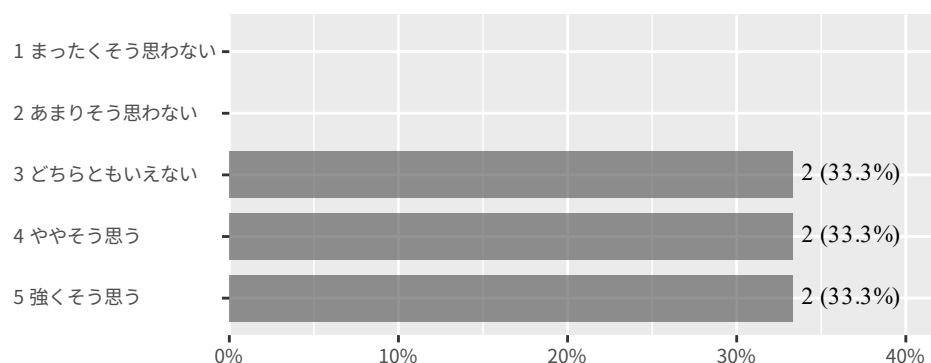


図 2-4: 「大学院に期待していた通りの知識や技能を獲得できた」の回答

2.5. 修了に必要な「講義科目」の単位数は適切である

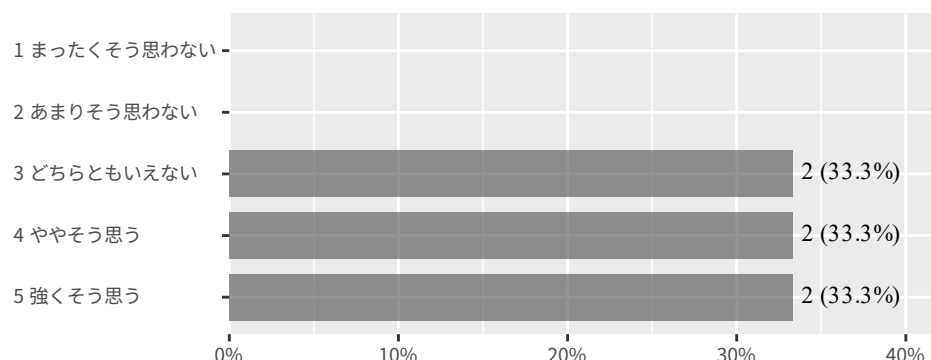


図 2-5: 「修了に必要な「講義科目」の単位数は適切である」の回答

2.6. 各項目の平均値

「強くそう思う」から「まったくそう思わない」までの5段階の選択肢に対して5点から1点を与え、その平均値を集計示す。

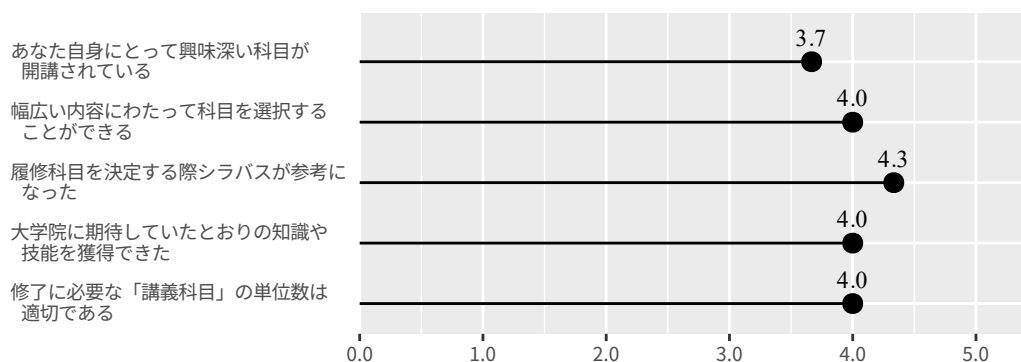


図 2-6: 各設問の平均値

2.7. 指導教員から十分な指導（研究指導・論文指導など）を受けている

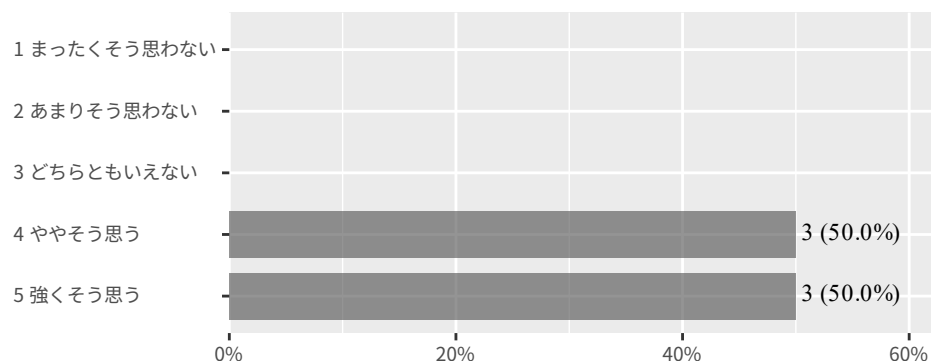


図 2-7: 「指導教員から十分な指導（研究指導・論文指導など）を受けている」の回答

2.8. 研究に必要な図書資料（書籍・論文）が十分に整備されている

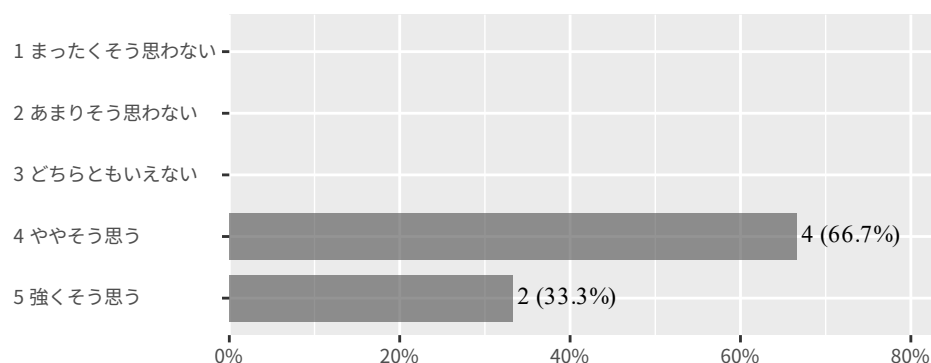


図 2-8: 「研究に必要な図書資料（書籍・論文）が十分に整備されている」の回答

2.9. 研究に必要な電子ジャーナル・データベースが十分に整備されている

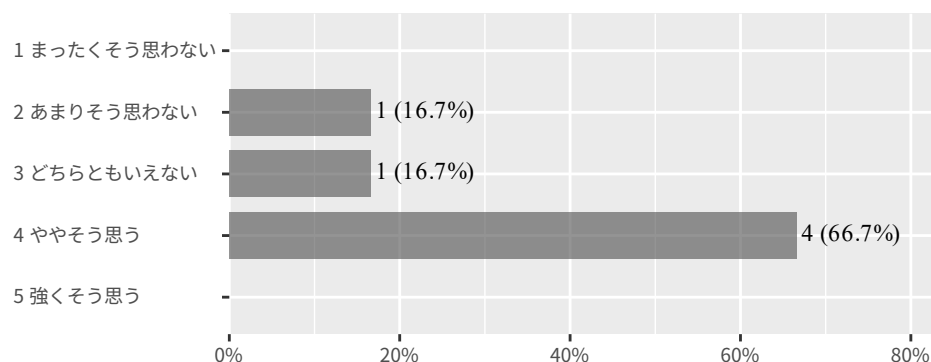


図 2-9: 「研究に必要な電子ジャーナル・データベースが十分に整備されている」の回答

2.10. 大学院生の共同研究室は研究活動に適した環境である

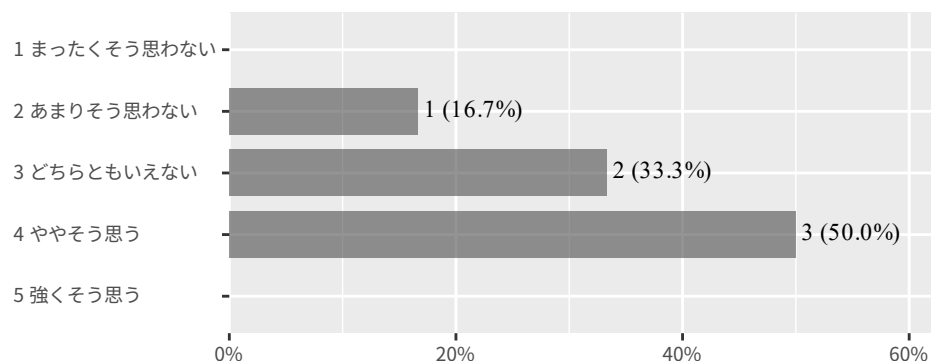


図 2-10: 「大学院生の共同研究室は研究活動に適した環境である」の回答

2.11. 学内設備（PC など）の利用環境が整っている

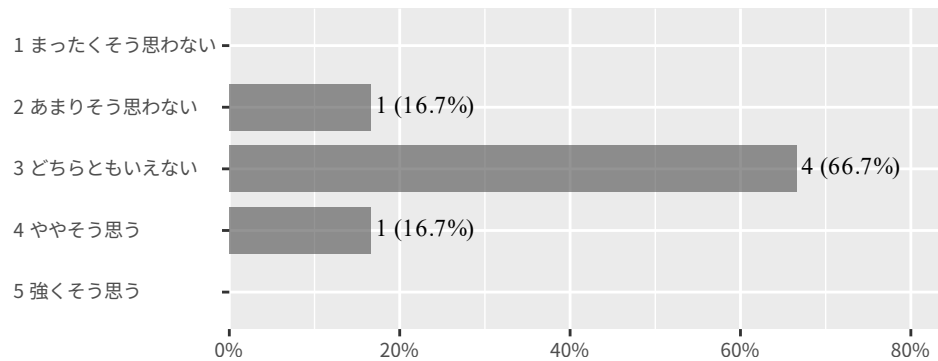


図 2-11: 「学内設備（PC など）の利用環境が整っている」の回答

2.12. 各項目の平均値

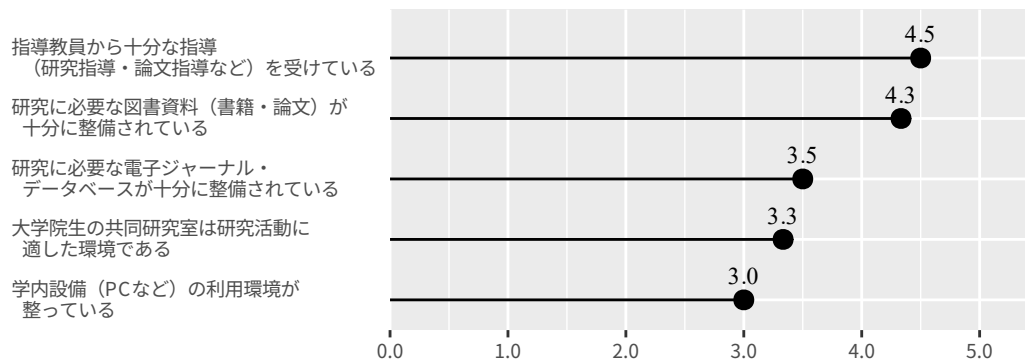


図 2-12: 各設問の平均値

2.13. 進路や経済支援など学生生活全般について相談できる環境がある

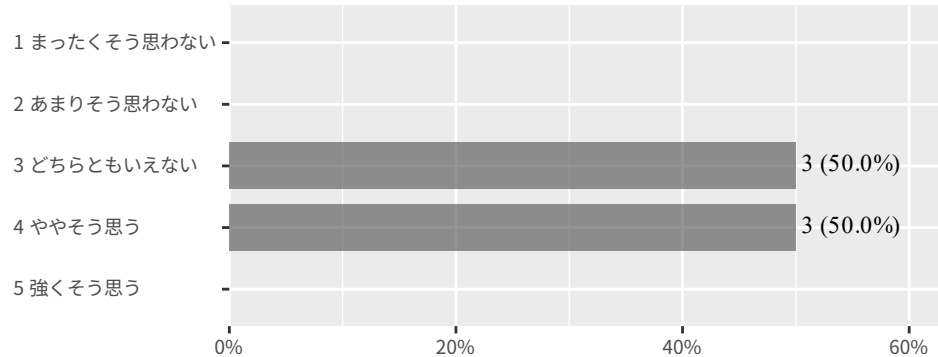


図 2-13: 「進路（就職活動を含む）や経済支援など学生生活全般について相談できる環境がある」の回答

2.14. 現在の大学院における学習活動に満足している

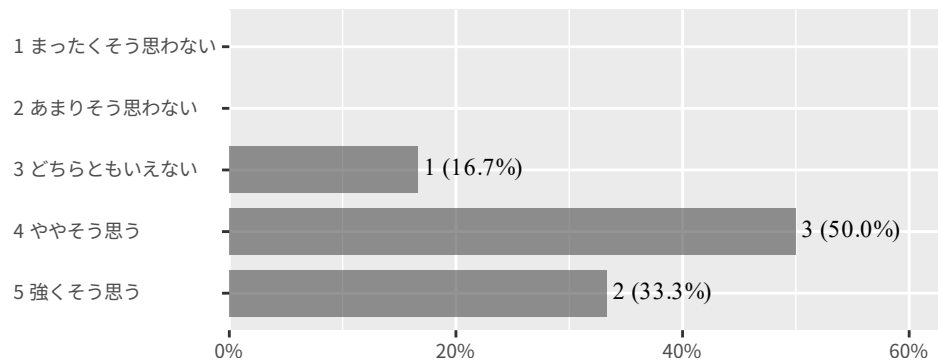


図 2-14: 「現在の大学院における学習活動に満足している」の回答

2.15. 各項目の平均値

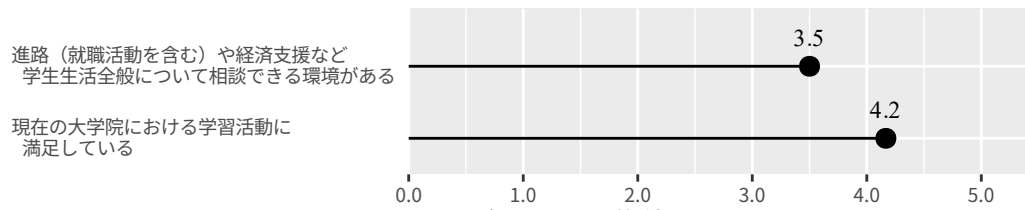


図 2-15: 各設問の平均値

2.16. 学内の講義や研究指導以外に研究会や勉強会に参加したことがある

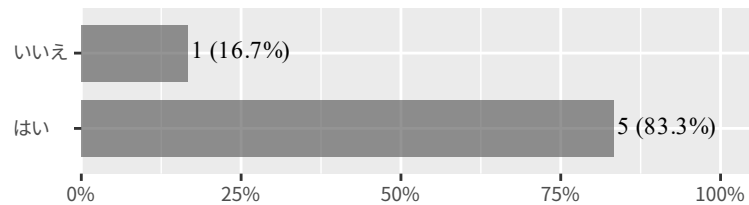


図 2-16: 「学内の講義や研究指導以外に研究会や勉強会に参加したことがある」の回答

第3章 大学院商学研究科
(アントレプレナーシップ専攻)
令和5年度 「授業評価アンケート」集計結果と分析

1. はじめに

本報告書は、令和 5 年度に開講した全 44 科目（「アントレプレナーシップ II（基本）・ベンチャー経営 II（発展）」・「アントレプレナーシップ III（発展）・ベンチャー経営 III（発展）」はコードシェア科目、「ビジネスワークショップ・リサーチペーパー」は履修者同一の関連科目）の「授業改善アンケート」の集計結果とその分析結果及び「成績評価」の集計結果とその分析結果を取りまとめたものである。

「授業改善アンケート」は、授業参観による「同僚評価」と教員自身による「自己評価」をもとに、授業の改善に結びつくヒントを探ろうとするものであり、これらを活用することで、より品質の高い教育の提供を図るものである。これに対して、「成績評価」は本専攻の在学生ならびに修了生による学習活動の成果を確認し、より一層の能力向上を図ろうとするものである。さらに、令和 3 年度から IR 室に協力を依頼し、本報告書の集計をより分かりやすい表記にすべく、助力を得ている。

なお、以下では「授業改善アンケート」のことを指して「アンケート」と表記している。

2. アンケートの概要

2.1. 質問項目

アンケートは 20 項目からなり、それぞれの質問項目は以下のとおりである。なお、質問項目 1、2、4 は五点尺度の回答と併せて自由記述による回答を、質問項目 18、19、20 は自由記述による回答を求めている。

1. カリキュラム

- ・ 本科目は、下記の【カリキュラム・ポリシー】と照らして、十分に整合していますか。

2. 学力/資質/能力

- ・ 本科目の授業内容は、本専攻が目指している【学生に身につけさせたい学力・資質・能力や養成する人材像】と照らして、十分に整合していますか。

3. シラバス整合性

- ・ 本科目の授業内容は、シラバスに記載された授業の目的と照らして、十分に整合していますか。

4. 理解促進

- ・ 本科目では、ケース・メソッドの導入や各種エクササイズの実施、対話・討論型の授業運営、多彩なメディアや情報機器の活用など、修生の理解を促しスキルの習得に資する工夫がみられましたか。

5. 説明

- ・ 授業における教員の説明（話し方の明瞭さやパワーポイントの見やすさを含む）は、分かりやすかったですか。

6. 資料

- ・ 授業で用いられた題材や資料は、授業を理解する上で適切なものでしたか。

7. グループワーク

- ・ 授業で行われたグループワークやグループディスカッションについて、そこから得るものがありましたか。

8. ディスカッション

- ・ プレゼンテーションや全体ディスカッション（質疑応答を含む）について、そこから得るものがありましたか。

9. 時間外学習

- ・ 本科目では、授業時間以外の学習（例えば、事前・事後の課題、予習、復習等）について、その必要性がどのくらいあると思いますか。

10. シラバス時間外/学修管理システム時間外

- ・ 本科目における事前・事後の課題や教室外での学習等について、シラバスではその内容が適切に

記述されていきましたか。また、学修管理システム等で適宜、適切に周知されていきましたか。（シラバスにおける内容の適切さ／学修管理システム等で適宜周知される内容の適切さ）

11. 事前課題

- ・ 事前課題は、授業を理解する上で役に立ちましたか。

12. 事後課題

- ・ 事後課題ないしレポートの作成から得るものがありましたか。

13. コメント

- ・ 課題・レポート返却のタイミングや、コメントは適切なものでしたか。

14. 時間外対応

- ・ 授業時間外での対応について、相対による教員の対応や学修管理システムを活用した対応は適切でしたか。

15. シラバス内容/学修管理システム内容

- ・ シラバス等において、モジュールごとの授業内容の記述は適切でしたか。（シラバスにおける内容の適切さ／学修管理システム等で適宜周知される内容の適切さ）

16. シラバス成績/学修管理システム成績

- ・ シラバスに記載された成績評価の方法・基準について、その内容は適切に記述されていきましたか。また、学修管理システム等で適宜、適切に周知されていきましたか。（シラバスにおける内容の適切さ／学修管理システム等で適宜周知される内容の適切さ）

17. 満足度

- ・ 本科目の授業について、満足しましたか。

18. 評価点

- ・ 本科目の授業について、良かった点をお知らせください。（5つまで）

19. 改善点

- ・ 本科目の授業について、こうすれば良かったという点をお知らせください。（5つまで）

20. 自由記述

- ・ その他お気づきの点がございましたらご記入ください。

なお、アンケートは各質問項目については 5 段階評価を行っており、評価対象の授業において該当しない質問項目については分岐させている。

2.2. 対象科目と調査の全体的概要

アンケートは、令和5年度に開講した全44科目で実施し、各科目の回答者数は以下のとおりである。令和5年度のアンケート回収率は93.1%であり、昨年度の95.7%より下落したが、引き続き高い水準を維持している。これは、アンケート回答の時間を、可能な限り授業時間中に設けるようにしていること、回答方法をWebシステムとしていることや、未回答者への督促などによる効果とみられる。本アンケート調査は、FD基礎資料としてのみならず、認証評価においても重要なデータとなっており、回収率維持・向上のために引き続き注力していきたい。

2.2.1. 基本科目

科目	主担当教員	対象者数	回答者数	回答率
経営戦略Ⅰ	玉井 健一	35	34	97.1%
マーケティングⅠ	近藤 公彦	35	34	97.1%
経営組織Ⅰ	筈井 俊輔	34	33	97.1%
アカウンティングⅠ	籾本 智之	35	34	97.1%
ファイナンスⅠ	手島 直樹	35	30	85.7%
アントレプレナーシップⅠ	泉 貴嗣	34	33	97.1%

2.2.2. 基礎科目

科目	主担当教員	対象者数	回答者数	回答率
ビジネスシミュレーション	籾本 智之	28	27	96.4%
経営戦略Ⅱ	玉井 健一	21	20	95.2%
マーケティングⅡ	猪口 純路	13	13	100.0%
経営組織Ⅱ	筈井 俊輔	19	18	94.7%
経営組織Ⅲ	西村 友幸	12	12	100.0%
アカウンティングⅡ	堺 昌彦	18	17	94.4%
アカウンティングⅢ	乙政 佐吉	16	15	93.8%
ファイナンスⅡ	手島 直樹	9	8	88.9%
ビジネス法務Ⅰ	玉井 健一	10	8	80.0%
経済学・分析手法Ⅰ	吉地 望	20	19	95.0%
経済学・分析手法Ⅱ	谷 祐児	8	8	100.0%
経済学・分析手法Ⅲ	宮崎 義久	3	3	100.0%
地域経済・経営Ⅰ	宇田川 耕一	15	15	100.0%
地域経済・経営Ⅱ	宇野 二郎	11	9	81.8%
地域経済・経営Ⅲ	小高 咲	7	7	100.0%
ビジネス英語Ⅰ	浦島 久	5	4	80.0%

2.2.3. 発展科目

科目	主担当教員	対象者数	回答者数	回答率
統合科目Ⅰ	内田 純一	25	23	92.0%
統合科目Ⅱ	鈴木 真人	8	8	100.0%
統合科目Ⅲ	李 濟民	7	4	57.1%
統合科目Ⅳ	太田 稔	14	14	100.0%
アカウンティングⅣ	松本 康一郎	4	2	50.0%
ファイナンスⅢ	齋藤 一朗	3	2	66.7%
ビジネス法務Ⅱ	小寺 正史	4	4	100.0%
ベンチャー経営Ⅱ	籾本 智之	1	0	0.0%
アントレプレナーシップⅡ	籾本 智之	19	17	89.5%
ベンチャー経営Ⅲ	今野 喜文	1	1	100.0%
アントレプレナーシップⅢ	今野 喜文	18	17	94.4%
ビジネス英語Ⅱ	小林 敏彦	5	5	100.0%
ビジネス英語Ⅲ	小林 敏彦	7	6	85.7%
特殊講義Ⅰ	林 亜衣子	17	17	100.0%
特殊講義Ⅱ	藤原 健祐	6	5	83.3%
特殊講義Ⅲ	籾本 智之	1	1	100.0%

(continued)

科目	主担当教員	対象者数	回答者数	回答率
特別講義Ⅰ	五味 宏	20	18	90.0%
特別講義Ⅱ	大見 英明	13	12	92.3%

2.2.4. 実践科目

科目	主担当教員	対象者数	回答者数	回答率
ビジネスプランニングⅠ	泉 貴嗣	33	32	97.0%
ケーススタディⅠ	堺 昌彦	35	32	91.4%
ビジネスプランニングⅡ	内田 純一	36	33	91.7%
ケーススタディⅡ	堺 昌彦	37	35	94.6%

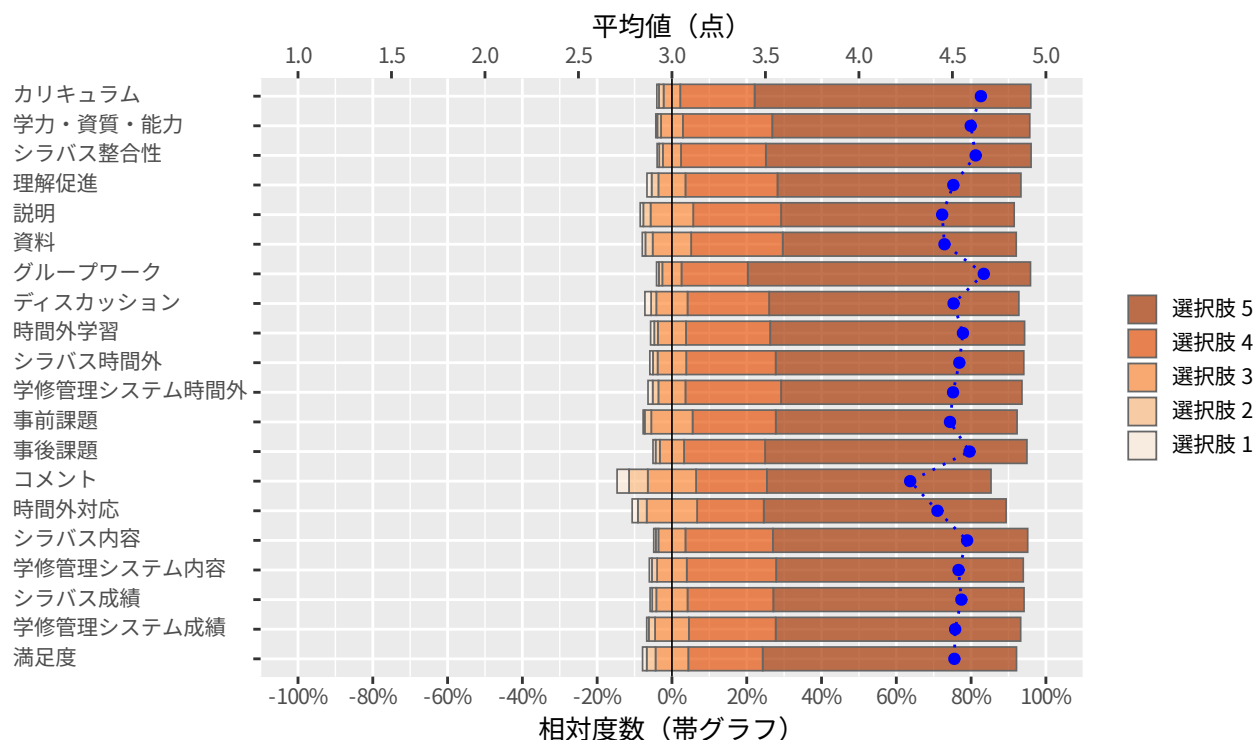
2.2.5. ビジネスワークショップ

科目	主担当教員	対象者数	回答者数	回答率
リサーチペーパー	簗本 智之	35	30	85.7%

3. アンケートの分析

3.1. 全体の回答分布

各質問項目に対する5段階評価の分布と、各質問項目の評価数、平均評価値については以下のとおりである。図では、各項目の回答割合を100%の帯グラフで示し、中間の「選択肢3」の中央が原点になるようにオフセットしている。また、各選択肢を1点から5点とした平均値を図中の点で示した。



※リカレント受講生の受講についても、対象者数に含めている。

図 3-1: 各項目の回答割合

項目	選択肢 1		選択肢 2		選択肢 3		選択肢 4		選択肢 5	
	度数	相対度数	度数	相対度数	度数	相対度数	度数	相対度数	度数	相対度数
カリキュラム	4	(0.6%)	9	(1.3%)	32	(4.5%)	143	(19.9%)	531	(73.9%)
学力・資質・能力	3	(0.4%)	7	(1.0%)	42	(5.8%)	172	(23.9%)	495	(68.8%)
シラバス整合性	4	(0.6%)	7	(1.0%)	35	(4.9%)	163	(22.7%)	510	(70.9%)
理解促進	9	(1.3%)	13	(1.8%)	52	(7.2%)	177	(24.6%)	468	(65.1%)
説明	6	(0.8%)	14	(1.9%)	82	(11.4%)	169	(23.5%)	448	(62.3%)
資料	6	(0.8%)	14	(1.9%)	74	(10.3%)	176	(24.5%)	449	(62.4%)
グループワーク	4	(0.6%)	6	(0.9%)	33	(5.1%)	114	(17.7%)	487	(75.6%)
ディスカッション	12	(1.7%)	10	(1.4%)	60	(8.3%)	157	(21.8%)	480	(66.8%)
時間外学習	7	(1.0%)	7	(1.0%)	54	(7.5%)	162	(22.5%)	489	(68.0%)
シラバス時間外	6	(0.8%)	9	(1.3%)	55	(7.6%)	172	(23.9%)	477	(66.3%)
学修管理システム時間外	9	(1.3%)	11	(1.5%)	52	(7.2%)	184	(25.6%)	463	(64.4%)
事前課題	3	(0.4%)	12	(1.7%)	76	(11.0%)	153	(22.2%)	444	(64.5%)
事後課題	5	(0.7%)	8	(1.1%)	46	(6.5%)	154	(21.7%)	497	(70.0%)
コメント	23	(3.2%)	36	(5.0%)	93	(12.9%)	136	(18.9%)	431	(59.9%)
時間外対応	11	(1.5%)	17	(2.4%)	97	(13.5%)	128	(17.8%)	466	(64.8%)
シラバス内容	4	(0.6%)	5	(0.7%)	52	(7.2%)	168	(23.4%)	490	(68.2%)
学修管理システム内容	5	(0.7%)	10	(1.4%)	57	(7.9%)	172	(23.9%)	475	(66.1%)
シラバス成績	4	(0.6%)	8	(1.1%)	60	(8.3%)	165	(22.9%)	482	(67.0%)
学修管理システム成績	4	(0.6%)	12	(1.7%)	65	(9.0%)	167	(23.2%)	471	(65.5%)
満足度	8	(1.1%)	17	(2.4%)	63	(8.8%)	143	(19.9%)	488	(67.9%)

5 段階評価の結果をみると、ポジティブな選択肢 4 と 5 がほとんどで、コメント以外の全ての項目において選択肢 5 の比率が 6 割超となっている。前年度における広範にわたる評価の下落に対して有効な対応がとられたことが見てとれる。とはいえ、コメントについてはネガティブな選択肢である 1 と 2 を合わせると 1 割弱であり、選択肢 5 についても唯一 6 割を切っていることから注意すべきであろう。

図 3-2 は、2004 年度から今年度までの満足度の推移を示したものであり、満足度は中期的に高水準を保っている。また、前年度の広範な評価の下落に対しても持ち直していることが確認される。アンケートによって測定されている項目については、概ね高い評価を得られており、授業設計・運営の質を一層高めていくためには、評価項目の見直しが重要であると思われる。

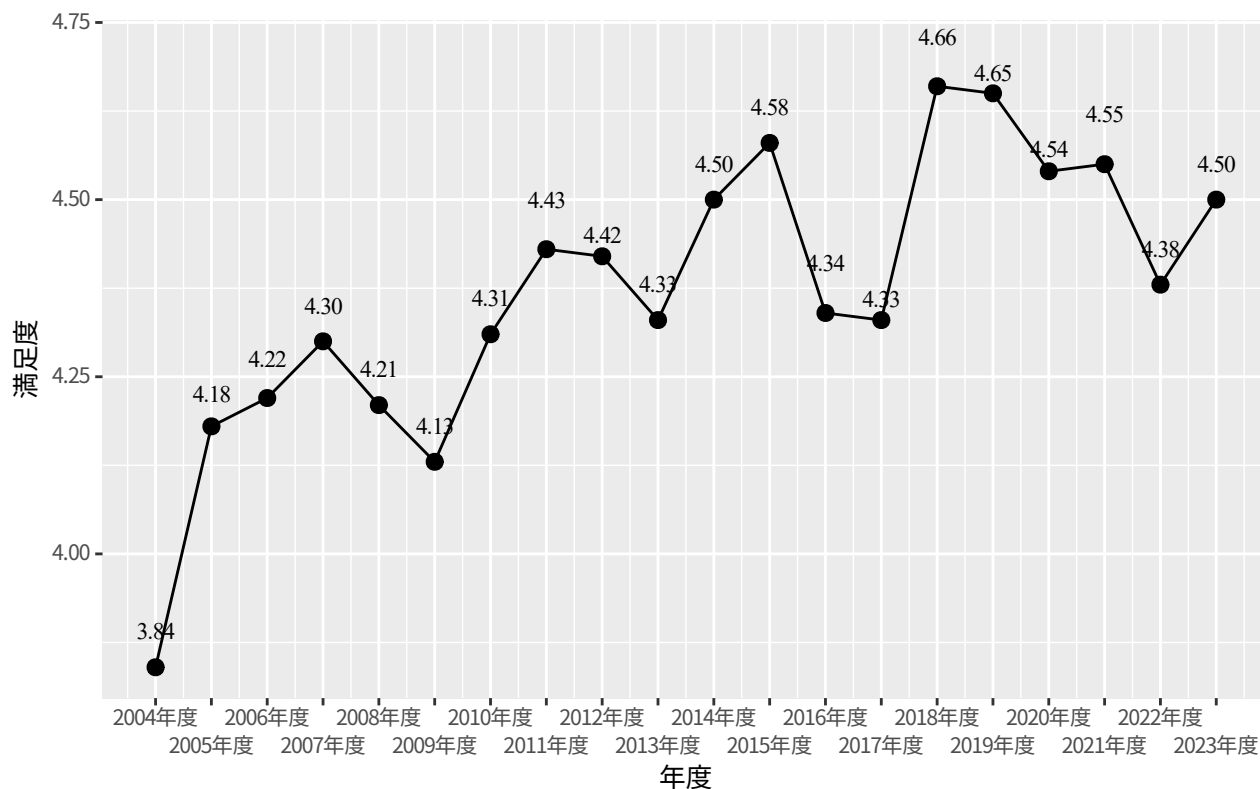


図 3-2: 満足度の推移

3.2. 「教員の教授法について」の分析

各質問項目間の相関係数については、表 3-1 に示したとおりである。これらの中から、満足度との相関関係および各質問項目の平均点を抽出したものが表 3-2、それに基づき散布図を描いたものが図 3-3 影響度-パフォーマンス・マトリクスである。

パフォーマンス・マトリクスにおいて、相対的に満足度との相関が高くかつ評価も高い右上のエリアに位置する項目は、本専攻の「強み」と考えられる。満足度との相関が高いにも関わらず評価が低い右下のエリアに位置する項目は、本専攻において「優先的に改善が必要」と考えられる。評価が低い項目ではあるが満足度との相関が低い左下のエリアに位置する項目は、「改善の優先度は低い」と考えられる。ただし、個別の不満の内容は十分に検討すべきである。満足度との相関が低いものの高い評価を得ている左上のエリアに位置する項目は、当面は現状を維持していけばよいと考えられる。

3.2.1. 本専攻の「強み」

令和 5 年度のデータに基づいてみると、本専攻の大きな「強み」(評価 4.5 以上)は「カリキュラム」「シラバス整合性」「学力・資質・能力」である。本専攻の授業が体系立って編成されていることが、学生個々の学力の向上や資質・能力のアップにつながっていることが実感されていることは非常に大きな強みである。また、前年までは「強み」の象限にあった「グループワーク」についても、満足度との相関は下がったものの高く評価されており、グループワークによる学習についても学生からは本専攻の特徴として高く評価されている点には留意しておくべきであろう。

3.2.2. 「優先的に改善が必要な項目」

他方で、本専攻において「優先的に改善が必要な項目」としては「資料」「説明」「理解促進」「時間外対応」「学習管理システム時間外」「コメント」が挙げられる。このうち、「資料」「説明」「理解促進」は密接に関連して満足度に繋がっていることもあり、理解促進に繋がるような方向での説明・資料の充実が求められるであろう。「コメント」については、全体の項目で評価が最も低いにも関わらず、満足度との相関が高いため、特に優先的に改善を図っていく必要があると考えられる。また授業時間外における対応についても、学生が重視している点には留意したい。

満足度

学修管理システム成績

シラバス成績

学修管理システム内容

シラバス内容

時間外対応

コメント

事後課題

事前課題

学修管理システム時間外

シラバス時間外

時間外学習

ディスカッション

グループワーク

資料

説明

理解促進

シラバス整合性

学力・資質・能力

カリキュラム

[illegible]

表 3-2: 満足度と各項目の相関係数および評価の平均値

項目	全体満足との相関	評価の平均
カリキュラム	0.645	4.652
学力・資質・能力	0.705	4.598
シラバス整合性	0.629	4.624
理解促進	0.696	4.505
説明	0.670	4.445
資料	0.702	4.458
グループワーク	0.570	4.668
ディスカッション	0.564	4.506
時間外学習	0.393	4.556
シラバス時間外	0.595	4.537
学修管理システム時間外	0.627	4.503
事前課題	0.385	4.293
事後課題	0.552	4.534
コメント	0.640	4.274
時間外対応	0.602	4.420
シラバス内容	0.589	4.579
学修管理システム内容	0.584	4.533
シラバス成績	0.579	4.548
学修管理システム成績	0.576	4.515
満足度	1.000	4.510

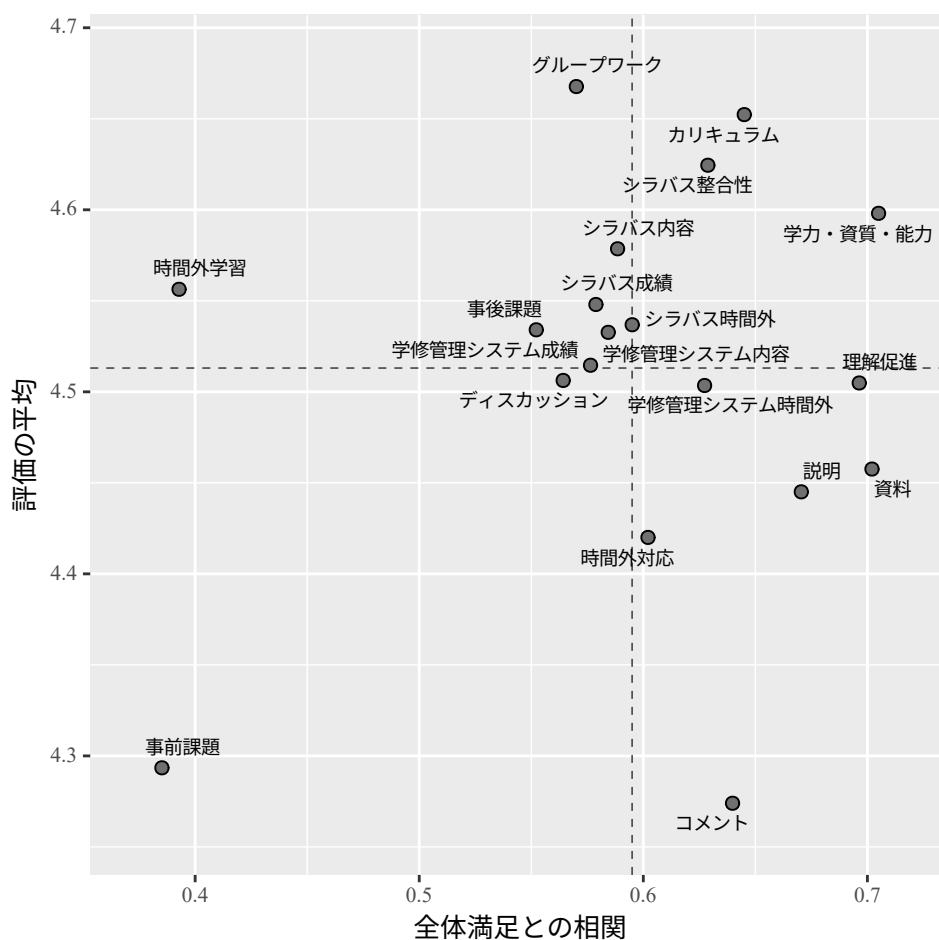
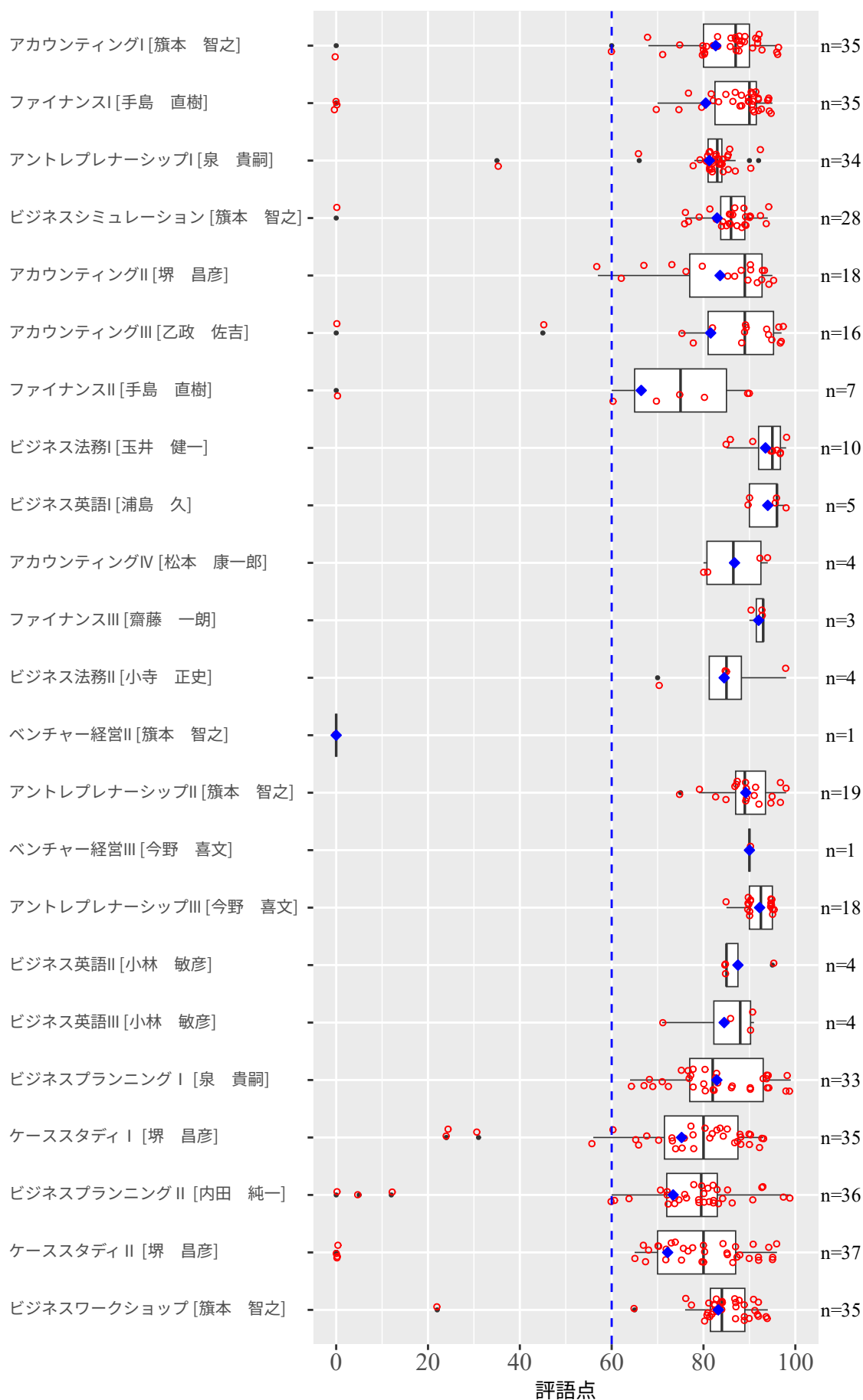


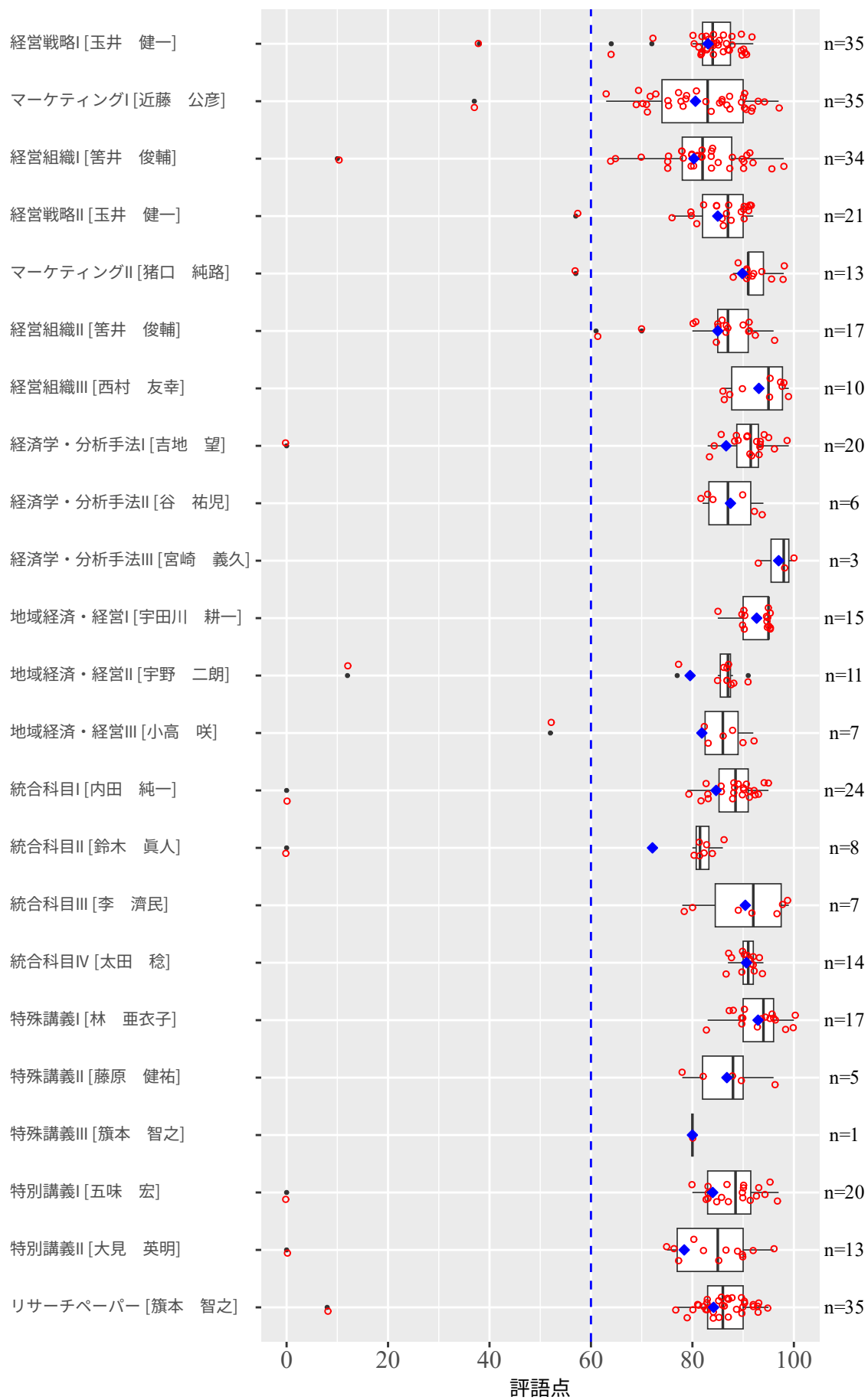
図 3-3: 影響度－パフォーマンス・マトリクス

4. 各科目の成績分布

各科目の成績分布 (1)



各科目の成績分布 (2)



५०

[illegible]

n	カリキュラム	学力・資質・能力	シラバス整合性	理解促進	説明	資料	グループワーク	ディスカッション	時間外学習	シラバス時間外	学修管理システム時間外	事前課題	事後課題	コメント	時間外対応	シラバス内容	学修管理システム内容	シラバス成績	学修管理システム成績	満足度
34	経営戦略Ⅰ	4.79	4.82	4.76	4.41	4.71	4.82	4.74	4.85	4.79	4.79	4.76	4.85	4.76	4.56	4.79	4.76	4.76	4.82	4.74
34	マーケティングⅠ	4.76	4.82	4.76	4.74	4.65	4.76	4.71	4.68	4.68	4.56	4.79	4.59	4.41	4.62	4.76	4.59	4.74	4.62	4.56
33	経営組織Ⅰ	4.64	4.73	4.52	4.18	4.45	4.76	4.70	4.39	4.76	4.70	4.61	4.61	3.91	4.55	4.79	4.79	4.82	4.82	4.52
34	アカウンティングⅠ	4.76	4.71	4.44	4.18	4.35	4.74	4.65	4.94	4.53	4.50	4.68	4.71	3.91	4.53	4.62	4.56	4.56	4.53	4.35
30	ファイナンスⅠ	4.83	4.77	4.07	4.40	4.47	5.00	3.27	4.67	4.63	4.60	2.83	4.00	4.23	4.33	4.73	4.70	4.73	4.70	4.30
33	アントレプレナーシップⅠ	4.85	4.85	4.79	4.88	4.88	4.82	4.79	4.61	4.85	4.85	4.70	4.67	4.73	4.76	4.82	4.82	4.76	4.76	4.82
23	統合科目Ⅰ	4.00	3.91	4.13	4.09	3.87	4.05	3.91	3.91	3.96	3.96	4.04	3.91	3.96	4.35	4.17	4.04	4.09	4.09	3.96
8	発展科目Ⅱ	4.25	4.00	3.88	4.25	4.50	4.38	4.25	4.00	4.50	4.50	4.12	4.12	4.75	4.62	4.50	4.50	4.50	4.50	4.38
4	統合科目Ⅲ	5.00	4.75	5.00	4.75	4.75	4.75	5.00	5.00	4.75	4.75	4.75	5.00	4.75	4.50	4.75	4.75	4.75	4.50	5.00
14	統合科目Ⅳ	4.71	4.71	4.71	4.79	4.71	4.57	4.50	4.36	4.50	4.50	4.57	4.57	4.43	4.64	4.50	4.43	4.43	4.43	4.71
2	アカウンティングⅣ	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
2	ファイナンスⅢ	5.00	4.50	4.50	5.00	5.00	5.00	5.00	4.50	4.50	5.00	5.00	5.00	4.50	5.00	4.50	5.00	5.00	4.50	5.00
4	ビジネス法務Ⅱ	4.50	4.25	4.50	4.25	4.00	4.25	4.50	4.50	4.75	4.75	3.75	4.25	3.75	3.75	4.75	4.75	3.75	3.75	4.00
17	アントレプレナーシップⅡ	4.76	4.65	4.47	4.59	4.47	4.53	4.41	4.29	4.24	3.88	4.24	4.18	3.53	3.82	4.29	4.06	4.24	4.06	4.47
1	ベンチャー経営Ⅲ	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	-	5.00	4.00	4.00	4.00	0.00	0.00	5.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	5.00
17	アントレプレナーシップⅢ	4.24	4.71	4.59	4.41	4.82	4.50	4.47	4.24	4.29	4.41	3.06	4.35	4.47	4.29	4.29	4.29	4.35	4.29	4.71
5	ビジネス英語Ⅱ	4.40	4.40	4.80	4.80	4.80	4.25	4.60	4.80	4.00	4.20	4.00	3.80	4.80	4.40	4.40	4.40	4.40	4.40	4.80
6	ビジネス英語Ⅲ	4.67	4.50	4.83	5.00	4.67	4.83	5.00	4.50	4.50	4.33	3.67	3.33	3.67	4.33	4.83	4.33	4.33	4.33	4.67
17	特殊講義Ⅰ	4.71	4.71	4.88	4.76	4.65	4.76	4.59	4.00	4.76	4.82	2.53	4.65	4.82	4.82	4.71	4.82	4.88	4.88	4.76
5	特殊講義Ⅱ	5.00	5.00	4.80	4.80	4.80	5.00	5.00	4.80	4.80	4.80	5.00	4.80	5.00	4.60	4.80	5.00	5.00	4.80	5.00
1	特殊講義Ⅲ	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
18	特別講義Ⅰ	4.44	4.39	4.39	4.22	4.39	5.00	4.44	4.28	4.50	4.44	4.39	4.28	3.72	4.11	4.39	4.33	4.17	4.17	4.50
12	特別講義Ⅱ	4.83	4.67	4.75	4.58	4.75	4.50	4.58	4.33	4.33	4.25	4.17	4.58	4.08	4.08	4.33	4.25	4.33	4.25	4.67
32	ビジネスプランニングⅠ	4.56	4.47	4.44	4.12	4.47	4.31	4.56	4.88	4.44	4.50	4.62	4.62	4.16	4.12	4.59	4.59	4.44	4.44	4.12
32	ケーススタディⅠ	4.59	4.41	4.56	4.34	4.53	4.25	4.78	4.84	4.56	4.50	4.50	4.59	4.31	4.50	4.66	4.53	4.56	4.53	4.25
33	ビジネスプランニングⅡ	4.39	4.27	4.21	4.15	4.09	3.76	4.30	4.76	3.94	3.85	4.15	4.48	3.70	3.88	3.94	3.91	3.94	3.94	3.88
35	ケーススタディⅡ	4.69	4.54	4.51	4.34	4.26	4.09	4.74	4.71	4.37	4.40	4.63	4.66	4.40	4.34	4.40	4.43	4.40	4.43	4.43
30	リサーチペーパー	4.30	4.23	4.27	4.03	3.73	3.83	4.42	4.53	4.10	3.97	3.93	4.37	3.57	3.57	4.03	3.93	3.97	3.87	4.07

6. まとめ

アンケート回収率は 93.1%と引き続き高い水準を維持している。大学の Web アンケートシステムの利用や、回答の利便性を向上・メールによる未回答者への督促など調査方法の改善の効果が影響しているものと考えられる。引き続き、Web アンケートシステムの利用を継続しつつ、回収率を高い水準に留めるよう努力を続けていきたい。

6.1. 分析結果のまとめ

今回のアンケート調査と分析を通じて、以下の点が明らかとなった。

- 全体の満足度は平均値が 4.50 となり、中期的に高い水準を維持している。また、広範な評価の下落があった前年度からも全ての評価項目で改善し例年の水準まで持ち直したことが確認できた。とはいえ、「コメント」については、全体での比率は小さいとはいえ、一定数のネガティブな評価が持続しており、注意を要する。他方で、高い評価が得られた部分については、高評価が得られた理由の把握と共有により、今後も高い評価を得られるような授業の設計・運営を行なっていく必要がある。
- 本専攻の強みは、「カリキュラム」「学力・資質・能力」「シラバス整合性」である。本専攻の授業が育成したい人物像のもと体系立って編成されそのことがシラバス等で明示されていることは学生に高く評価されており、この点は今後も維持していくべき点であろう。また、グループワークによる学習が本専攻の特徴として高く評価されている点も今後の授業設計において考慮することが望ましいであろう。
- 「優先的に改善が必要な項目」として重視すべきは「資料」「説明」「理解促進」「時間外対応」「学習管理システム時間外」「コメント」である。「資料」「説明」「理解促進」は密接に関連して満足度に繋がっていることもあり、理解促進に繋がるような方向での説明・資料の充実が求められるであろう。また、コメントについては全項目の中で最も低く評価された項目であると同時に、満足度にも繋がっていることから、この項目の改善は重要であると考えられる。これらの点については高評価を得た授業における工夫やノウハウを共有し、今後の授業設計・運用に活かしていくことが望ましい。時間外対応についても学生が重視している点には留意したい。

授業評価アンケート結果を踏まえた自己評価（令和4年度後期科目）

科目区分	科目名	担当教員
基本	ファイナンスⅠ（コーポレートファイナンス）	手島 直樹

今後は対面の授業となるため、直接的なコミュニケーションを通じて学生の理解度をさらに高めたい。

科目区分	科目名	担当教員
基礎	経営戦略Ⅱ（イノベーション戦略）	玉井・大見

今回はソーシャルビジネスと一般企業の両方を含めた議論を展開してきた。ソーシャルビジネスについては、まとまった観点から授業を展開することができたと思う。ただし、ソーシャルイノベーションの議論を含めた結果、一般企業のイノベーションについては時間的制約により講義で提供する理論が不足し、統合的に授業を展開することができなかった。したがって、令和5年からはソーシャルイノベーションは別講義として科目を新設し、本講義では一般企業のイノベーションについてのみ講義していく。

科目区分	科目名	担当教員
基礎	マーケティングⅡ（市場志向経営）	猪口 純路

例年と比べて授業内容を特段に引き上げた訳ではないのですが、後半のアンケート作成、収集、統計分析のパートを難しく感じられた方が多かったようです。

各モジュールの冒頭で、市場志向の理論的枠組、マーケットインテリジェンスを生み出す手段の一つであるインタビュー調査やアンケート調査という関連付けも強調したつもりでしたが、それがまだまだ不十分で「自分は何をしているのか分からない」という方がいらっしゃったかもしれません。

あるいは、大学側でSPSSを準備するのに例年よりも数日から1週間ほど時間を要したため、統計分析の理解に必要な時間が十分に取れなかったと感じた方がいらっしゃったかもしれません。

あるいはまた、もっと高度な調査能力と統計分析能力がこの授業で身につくことを期待して下さっていたのに対して、授業内容はそうでもなかったという評価かもしれません。

講師の目線としては、皆さんのディスカッション、統計分析、最終的レポートを拝見する限り、受講前よりも確実に前進されていると評価していますが、いただいたご意見を参考にさせていただきながら、授業全体における統計分析パートの意味や意義、到達目標の共有などをより丁寧に進めていきたいと考えます。

またmanabaでのレスポンスを高めてほしい旨のご要望もいただきましたので、こちらも気をつけるようにしたいと考えます。

科目区分	科目名	担当教員
基礎	経営組織Ⅱ（問題解決能力の開発）	林 亜衣子

課題解決に必要な思考力と、組織の課題解決に不可欠なスキルを身に付けていただくため、知識や理論を”活用する”、”実践する”こと、事後課題やディスカッションを通じて”思考”していただくことに重点を置いています。心理学を含む異質な点も面白味の一つです。

科目区分	科目名	担当教員
基礎	アカウンティングⅡ（コストマネジメント）	堺 昌彦

経営の様々な局面において適切な原価情報を入手し適切に活用するための知識の習得を目的として、重要と考えられるトピックについてレクチャー・演習・課題・解説の組み合わせることで理解の促進を試みた。授業の基本的な設計自体は有効であったと考えられるが、授業全体を通しての解説の体系化、学生自身のさらなる学習につながるような実例、参考文献の紹介といった点で改善の必要性を感じている。

科目区分	科目名	担当教員
基礎	経済学・分析手法Ⅱ（ビジネス統計分析）	谷 祐児

概ね良好な結果が得られているが、ディスカッションやフィードバックなどをより充実させることで本講義で取り上げているテーマへの理解を深めてもらえるようにしていきたい。

科目区分	科目名	担当教員
基礎	経済学・分析手法Ⅲ（ビジネスエコノミクス）	宮崎 義久

概ね受講生からの評価結果から、講義形式などは比較的に高い評価が得られた。輪読形式によって、受講生同士の対話・議論をオンラインで実現することができたことはひとつの達成であり、今後も重視していきたいところである。一方で、受講生から提出された課題などについてフィードバックが不足していた点は、本講義の大いなる反省・課題点である。できうるかぎり課題に対するフィードバックを詳細に行うことが必要であると感じた。

科目区分	科目名	担当教員
基礎	地域経済・経営Ⅱ（北海道でのビジネス創造と地域経営）	千葉 俊輔

実務的な講義内容やディスカッションの実施などについては意図した成果はあったものの、講義資料の分かり易さや活舌などに問題があったと反省しています。

私の授業はこれで終わりですが、今後とも実践的な授業も取り入れていただけるよう希望します。

科目区分	科目名	担当教員
基礎	ビジネス英語Ⅰ（初級ビジネス英語）	浦島 久

私が進める「話すための英語音読」の考え方がある程度確立してきました。ビジネスがらみの英文もおもしろいものを用意できるようになりました。今後はさらに受講生が興味を持つようなものを集めたいと思います。

科目区分	科目名	担当教員
発展	統合科目 III（グローバルマネジメント）	李 濟民

トランスナショナル・マネジメントについての最新理論を原文で読解することで、グローバルな MBA 水準に相応しい授業内容になっている。各モジュールにおいて、前半はテキストの講義、後半は受講生自ら選んだケースの発表とディスカッションを行うことで OBS で学んだプレゼンテーションとディスカッションのスキルを存分に発揮してもらい、学びあうことができる。

科目区分	科目名	担当教員
発展	統合科目 IV（戦略的 CSR）	太田 稔

本年度もありがとうございました。受講生たちはフィールドワークを体験してから授業を受けることで、より体験的に理解しているようでした。あと何回開講できるかわかりませんが、よりよく改善していきたいと思います。

科目区分	科目名	担当教員
発展	アカウンティング IV（国際会計）	松本 康一郎

IFRS(国際財務報告基準)を巡る理解促進という基本目的はほぼ達成されたと思われる。ただし、授業内容が豊富なため、理解促進の点で受講生の評価がやや低かったことは、反省点である。次年度は、この点を踏まえた授業改善に努めたい。

科目区分	科目名	担当教員
発展	ファイナンス III（金融機関マネジメント）	齋藤 一郎

本授業は、大括りに二部構成をとっています。モジュール 1~3 では、金融取引の意義や金融取引に伴う諸々の困難を議論の口火切りとして、銀行がそれらの困難をいかにして解決し資金を円滑に融通するのかを、銀行のビジネスモデルに即して解説します。ここでは、銀行のビジネスモデルを理解するための基本的な視座を養うことを到達目標としています。モジュール 4~8 では、銀行のビジネスモデルに関わる理解を踏まえて、銀行財務の分析やマクロ経営環境や競争環境に関する定性的な分析をケーススタディの方法によりながら行っています。モジュール 4~8 の到達目標は、銀行経営が直面する経営課題を見だし、戦略的な打開策の構想力の涵養することに置かれています。

履修学生は、毎モジュール、ステップ・バイ・ステップで具体的な金融機関を分析の俎上に上げ、分析の進捗状況やそれまでの分析から得られた金融機関の現状に関する知見・経営課題などを発表するとともに、少人数であるがゆえに密度の濃いディスカッションを繰り広げています。履修学生は、本授業を通して、これまでに学習してきた各種の知識・スキルを統合して「使う」ことを再確認するとともに

に、一般企業とは異なるインフラ産業の担い手、あるいは公益企業に内在する経営課題に触れることで、一般企業以上とはこれまた異なる経営変革の難しさの一端に触れることができます。

授業は、学生による授業評価、同僚評価結果のいずれにおいても、概ね好評を博しており、次年度以降の授業も基本的には今年度の授業を踏襲したかたちで行おうと考えています。しかしながら、細部においてはまだ改善の余地が多く残されており、例えば、オフィスアワーを設けることによる時間外対応の改善、口頭のみならず、添削等によるコメントなど、工夫を凝らしていきたいと思います。

科目区分	科目名	担当教員
発展	ベンチャー経営 III（アントレプレナーの起業戦略）	坂本 英樹

概ね予定通りである。

科目区分	科目名	担当教員
発展	ビジネス英語 II（初中級ビジネス英語）	小林 敏彦

20 数年間ビジネス英語を担当しており、そこから生き残り継承された様々なタスク行ってきたが、今年は受講生が少なかったために実施できなかったものが少なかった。また受講者の英語モチベーションを低いものも多く、受け身の学習姿勢が感じられる者もいたので、この点については今後指導法を改善したいと考えている。

科目区分	科目名	担当教員
発展	ビジネス英語 III（中級ビジネス英語）	小林 敏彦

今年は例年行ってきたビジネスプランの英語プレゼンテーションを最終プロダクトするのを改めて、国際ビジネスメディアリテラシーを高めることを第一と考え、Podcast などを使いビジネスに関する英語ニュースの取得するスキルのアップに重点を置いた。これで学生にも好評で、その後学期終了後もメディア英語学習を継続していることがおり、安堵している。今後もこの方針で進めたいと考えている。

科目区分	科目名	担当教員
発展	特殊講義 II（地域医療マネジメント）	藤原・猪口・北川外

本科目のテーマとなる「地域包括ケアシステム」を、人口減少社会における新しいまちづくりの問題として捉えた時に、ヘルスケア（医療・介護・健康）サービスの提供には、関連産業・周辺産業が連携した新たなサービスモデルの構築が必要となる。本科目は OBS における「特殊講義」として、ヘルスケア領域に特化し、ヘルスケア全般におけるトピックスを毎回各分野を代表する専門家を招いての講義および外部からの参加者も交えたグループワークを実施しており、他の科目とは運営の仕方が大きく異なる。アンケート結果からは概ね受講者からの好評が得られているようであり、現行の運営方法を継続・発展させていきたい。

科目区分	科目名	担当教員
実践	ビジネスプランニング I	内田・泉・齋藤・藤原・石河・井馬・太田（稔）

本授業では、あらかじめ提示したテーマに沿って、ビジネスプランニングを 3~4 名前後のグループで取り組む。講義は、全 4 モジュール (4 講連続講義 × 4 日) で実施され、その全てにおいて事前課題を持ち寄る対面講義、および事後課題の添削指導を行うというものである。

それらの過程を通じ、「コンセプトメイキング」、「オペレーション戦略」、そして「フェーズ・財務計画」というように、積み上げ式にプランニングさせ、体制を整えて指導にあたっている。また、対面指導、添削指導をくりかえすことにより、練り上げ/練り込みのサイクルを回しながら、受講生が理想的な事業計画を策定できるよう、指導できている。

以上の指導過程を通じて、作成されたプランは着実にブラッシュアップできているため、目標は概ね達成されるだけの条件を整えることができたと自己評価している。

ただし、グループ制で一つの課題を作り上げるためか、学力差や投入時間の違いから、例年どうしてもフリーライドする受講生が出る。そのため、課題一つ一つのブラッシュアップは着実に進んでも、教育効果が出る学生と出ない学生がいることは否定できない。

なお、学生による評価結果は、ほとんどの項目について全体平均値よりも低い結果となった。なかでも際立った低さとなったのが、「シラバス成績」と「コメント」についてである。自由記入欄の回答内容の中に講師が下す成績評価に講師間のバラツキがあるという苦情や、コメントの質に一貫性がない、といったものがあり、複数教員で担当している科目として避け難い弱点が露呈してしまっていると考えられる。

次の授業に向けての改善点として、フリーライダー問題については、次の授業からは個人学習の比率を増すなどして対応する予定である。また、「シラバス成績」、「コメント」については、講師間での平均値にもとづく得点調整、および調整時にコメント内容を見直すなどの作業を行う（現在も行っているが、さらに精緻化して進める）予定である。

科目区分	科目名	担当教員
実践	ケーススタディ I	堺・近藤・筈井・北川・椎名・山田（政）

財務、マーケティング、組織、および戦略のクロスファンクショナルな視点から、企業の事例の統合的な分析と戦略立案を行うスキルと能力を習得することを目的に授業を行い、この目的は概ね達成できたと考えられる。しかしながら、実践科目・ケーススタディの趣旨（及びそれに基づいて行うこと）について必ずしも十分な理解が得られていない点が効果的な学習の妨げになっている部分も見られたため、以降は授業趣旨と行うことについてのガイダンスをより充実させる必要があると考える。

科目区分	科目名	担当教員
ビジネス ワーク ショップ	ビジネスワークショップ	簗本・猪口・小林 （敏）・齋藤・玉井・手 島・井馬・李

技術者のシーズをビジネス化するための戦略を立案するビジネスサポート研究会が第 3 のコースとして設定され、従来のケーススタディコースとビジネスプランニングコースに加わり、履修者の選択の幅を広げ、授業内容が豊かになった。

科目区分	科目名	担当教員
ビジネス ワーク ショップ	リサーチペーパー	簀本・泉・猪口・内田・ 小林（敏）・近藤・齋 藤・堺・玉井・手島・ 筈井・藤原・井馬・李

MBA にふさわしいリサーチペーパーの作成が本授業の目標であるが、十分に達成することができた。

科目区分	科目名	担当教員
基礎	ビジネスシミュレーション/ビジネスシミュレーション B クラス	簀本・芝・谷・渡部

コロナ禍によりオンラインで授業を行ったが、通常の授業と同じ回数のシミュレーションであり、授業効果は変わらなかった。

授業評価アンケート結果を踏まえた自己評価（令和5年度前期科目）

科目区分	科目名	担当教員
基本	経営戦略Ⅰ（経営戦略）	玉井 健一

学生に対してできる限りわからない部分がないように工夫して講義を展開したつもりであるが、いづらか、難解な説明になってしまっている部分があるので改善したい。

また、学生とのディスカッションをしっかりと管理し、時間管理を適切に行うよう努力したい。

科目区分	科目名	担当教員
基本	マーケティングⅠ（マーケティングマネジメント）	近藤 公彦

学生アンケートで、すべての質問項目で専攻平均を上回り、高い評価を受けた。一方、改善点（自由記述）において、事後課題レポートについて「設問をより具体的に」「採点基準をより明確に」といった指摘がいくつかあり、対応していきたい。

科目区分	科目名	担当教員
基本	経営組織Ⅰ（組織行動マネジメント）	筈井 俊輔

組織行動マネジメントに関する基礎知識については大半の受講生が学修することができ、本授業の目的と目標はおおむね達成できたと思われる。ただし、応用的知識とそれに基づく事例等の分析、自身に関わる組織における実践という点では、十分に学修できている受講生とそうでない受講生に大別された。その理由としては、主に、受講生の組織経営に対する思慮の深さやその経験に起因することに加えて、授業内容の抽象度やケース課題の難易度が挙げられる。とはいえ、過度に簡素化・容易にしたケース課題は、実践から乖離したり、経験値の高い受講生にとっては退屈となったりすることが予想され、適切なバランスを継続的に探索する必要がある。また、受講生による評価を受けて、1 事前課題（テキスト講読及びケース資料の分析）の適切な負担の探索、2 組織行動マネジメントの具体的なイメージ獲得を促す把握授業資料の工夫（ただし過度に簡単なものや冗長な映像資料の利用を避ける）、3 事後課題に対する解答例の提示やフィードバックの効果的なあり方の模索を今後の改善課題とする。

科目区分	科目名	担当教員
基本	アカウンティングⅠ（財務会計）	籾本 智之

今年度よりレクチャーアンドケース形式に変更したが、概ね好評であったので、継続していく。その中で初学者の理解促進には最大限の努力を重ねていく。

科目区分	科目名	担当教員
基本	アントレプレナーシップⅠ（エシカル・アントレプレナーシップ）	泉 貴嗣

グローバル、ローカルを問わず今後も ESG 経営、サステナビリティ経営の重要性は業種、企業規模の大小を問わず求められる。

これらの根幹をなすエシカル概念の理解と、そのビジネスにおける実装は、MBA に不可欠なものと考えている。

そのため、今後もエシカルに関する最新の動向や理論、研究成果を教育内容に反映させるとともに、学生がより学習効果を高められるように、教育技法についても研鑽を重ねる所存である。

科目区分	科目名	担当教員
基礎	アカウンティング III（予算管理と業績評価）	乙政 佐吉

授業の目的を達成する上で、レクチャーによる基本的事項の理解、ケース・スタディによる考察、事後課題による内省という授業の進め方自体に問題はなかったと考える。しかしながら、モジュールのテーマによっては、授業の進め方を柔軟に変更していく姿勢が求められると認識している。学生の理解を促進する、あるいは、教員と受講生の、あるいは、受講生同士の対話を促す授業の進め方について実践と反省を繰り返しながら改善していきたい。

科目区分	科目名	担当教員
基礎	ファイナンス II（企業価値経営）	手島 直樹

私のコンサルティング業務の内容も反映した授業であり、かなり実践的な内容である。ドメスティックではなく、グローバルな意識で仕事をしたい学生には適した授業となっている。

科目区分	科目名	担当教員
基礎	経済学・分析手法 I（行動意思決定の基礎）	吉地 望

講義の最後まで興味を持って聞いて頂けたのは、大変有り難いと感じております。

今後はより多くのグループワークやディスカッションの機会を提供し、更に行動経済学に対する理解を深めることで

より良い意思決定が行えるような支援をしていきたい。

科目区分	科目名	担当教員
基礎	地域経済・経営 I（プロジェクト・マネジメント）	宇田川 耕一

到達目標である「プロジェクト・マネジャーに求められる 1 チームの育成スキル、2 組織化のスキル、3 コミュニケーションスキル、4 問題解決スキル、5 リーダーシップ、以上 5 つのスキルを理解し、実践力を身につけること」

科目区分	科目名	担当教員
基礎	地域経済・経営 III（北海道経済の課題）	小高 咲

北海道経済の現状や構造の把握、分析を踏まえての課題認識において、「北海道の経済的基盤強化」というマクロ的な視点が総じて弱くなってしまった。マクロ的な視点をもって北海道経済を把握し、課題解決の方向を考察することがこの講義の目的であることをより明確にし、それに沿ったアウトプットを求めるべきであり、その旨をシラバスに明記すべきであったと考える。また、事前・事後課題も含め、講義時間以外における学習の目的・内容やアウトプットが曖昧であったことも反省点である。

科目区分	科目名	担当教員
発展	統合科目 I（サービスマネジメント）	内田 純一

本講義は、レクチャーとケーススタディ、プランニング実習という3つの講義手法によって運営され、基本科目から連なる理論を積み重ねて進化させていけるよう配慮している。とりわけプランニング実習には重点を置き、サービス・イノベーションを創出するためのスキルを育成するという講義目的については、実習中のコメントと、事後の講師フィードバックにより概ね達成されている。また、サービス事業のビジネスモデル構築能力を獲得させる、あるいはサービス・コンサルティング能力を育成するといった到達目標についても、3つの講義手法をリンクさせた講義設計図をガイダンス時および最終講義にて示し、参加者各位がそのスキル獲得の達成状況について自己把握できるよう工夫している。

学生による評価結果は、開講初年度から見れば、傾向として上向きに改善されてきていることが把握できる。とはいえ、講義内容に含まれる領域の広さ、課題をこまめに出す回数などは初年度を100とすれば、近年は70程度まで量的に削減し、軽量化してきている。これは過去の学生による評価結果にあった、範囲の広さ・課題の多さに寄せられた批判に応えた結果である。いわゆるキツイ科目であったものが、年々「楽な科目」に多少なりとも寄っていないか今後も気をつけておきたい（学生による評価結果は参考にすべきだが、あまりに適応しすぎるのも考えものであるとも理解している）。

本科目のレクチャー、ケース、プランニングという三本柱のうち、レクチャーについては、新たに教科書を執筆し、講義に採用する予定である。これにより講義内容の体系化を狙う。次に、ケースについては、講師執筆のケース本数を増やし、オリジナリティを高める予定である。これにより講義内容の独自性を向上させる。最後に、プランニングについては、講師が担当する別科目であるビジネスプランニング系講義と内容的に連携させることにより、カリキュラム上の一貫性を高めていくことを狙う。

科目区分	科目名	担当教員
発展	ビジネス法務 II（知的財産マネジメント）	小寺・富田・太田（清）

- 知的財産の概要、知的財産の取得の概略、知的財産の活用方法及び知財紛争の対応について、知財の実務に即して、具体的な事例に基づいて講義を行った。
- 真面目に講義を受けた受講生においては、これまで法律や知的財産になじみがなかった場合でも、知財に関して実践的な理解がある程度できたと思われる。

科目区分	科目名	担当教員
発展	アントレプレナーシップ II (アントレプレナー・ファイナンス) /ベンチャー経営 II	簗本・猪口・穴田・入澤・大口・中口

実践を教育するために、テーマに精通した実務家を非常勤講師として配置し、ベテランの専任教員とのコラボレーションで授業を行った。事前の準備はより多くのリソースを割いて行うべきとの改善点を認識した。

科目区分	科目名	担当教員
発展	ビジネス英語 II (初中級ビジネス英語)	小林 敏彦

受講生が例年通り数名であり、その分だけ丁寧な授業ができたと考えている。特に口頭での発表やライティングについては一人ひとりきめ細かな指導ができたと考えている。また、課外活動としてSNSを用いたディクテーション活動やその他のケアも毎日のように行ってきたので、2週間に1回という語学学習的にはあまり好ましくない授業間隔の欠点を補強できたと考えている。

科目区分	科目名	担当教員
発展	特別講義 I (ジャーナリストの視点からみた企業変革)	五味 宏

学生による授業改善アンケートを参考にして、よりレベルの高い授業を心掛けたい。

科目区分	科目名	担当教員
実践	ビジネスプランニング II	内田・泉・齋藤・藤原・井馬・幾世橋

授業目的の達成度合いについては、ギリギリ及第点レベルであると考えているが、到達目標については一定の成果をあげていると思われる。

ビジネス・プランニング教育では、自由なプランニングを認めているがゆえに、当然ながら産業・業種・職種の幅が多岐にわたる。それら幅広いプランに対応するために、どうしても多様な出自を持つ、多くのスタッフの力を借りて教育を展開せざるを得ない。本講義では、現状は非常勤講師の雇用のための経費配分を潤沢に受けており、なんとか対応できているが、専任教員の相次ぐ退職・離職により、専任スタッフの経験年数は他科目よりは少ない。上で「及第点レベル」と自己評価した背景には、このような人的リソースの問題があった。

実際、学生による評価結果は、多くの項目において専攻平均を下回った。専任スタッフの経験年数不足が背景にあるのはもちろんだが、一部の学生コメントにもあったように、新しい教育施策の導入による不慣れさもあいまって、授業運営上の混乱を度々きたしたことが、このような低評価を招いた原因であろう。

とはいえ、教員のキャリアの問題については、初年度・次年度を終え、来期はほぼ問題ないレベルに引き上げられていくはずである。非常勤講師の担当者についても、数年の経験を持つ担当者が引き続き担当してくれる見込みであり、人的リソース上の問題は中長期的には表出してこなくなるであろう。

ただし、課題がないわけではない。ビジネスプランニング技法の一般社会におけるあり方は、本専攻設立の頃よりもだいぶ変化している。その変化を端的に言えば、時間をかけたプランニングよりも、少ない時間で理解できるビジネスモデルが好まれる、という傾向と表現できよう。よって、本科目で扱う教育内容が領域的に古くなったというわけでは決してないのだが、より現代的なトレンドを反映して、教育方法を改変すべき時期が来ていることは間違いない。

今後は、外的な変化の潮流を見据えた上で、本専攻の人的リソースと相談しながら、さらなる教育進化の策を検討していきたい。

科目区分	科目名	担当教員
実践	ケーススタディ II	堺・猪口・玉井・筈井

ケーススタディ II はケーススタディ I で習得した多角的な視点から企業を総合的に分析し識別した戦略課題に対応する戦略を立案する基本スキルをより高度に発展させることを目的とした授業である。具体的には、ケーススタディ I での基本スキルからさらに、1 分析に必要な情報を自ら収集すること、2 分析に必要なツール・フレームの選択を自ら行うこと、3 分析/立案した戦略のロジック・根拠をより厳しく追究することを通じて、分析能力の高度化を図ってる。この目的については概ね達成できたと考えられる。次年度については、今年度の基本的な方向性を維持しつつ受講生の円滑な学びが促進されるようファシリテーションの改善を図っていった。他方で、財務モデルの構築（戦略案の財務評価）については、授業の中での位置づけは付随的なものとは言え、基本科目で習得している知識と本授業で習得させたいものが前提としている知識の間に乖離が見られ、より適切な学びに繋がるよう検討していく必要がある。

第4章 令和5年度 CGS教育支援部門の活動状況

令和5年度 CGS 教育支援部門の活動内容

4月	・前期授業開始（4/10～）：遠隔授業サポート ・（学部）新入生アンケート
5月	・（アントレ）FDワークショップ
6月	・（アントレ）授業評価アンケートの集計結果に基づく教員の自己評価 ・（アントレ）授業参観
7月	・（学部）学科単位での授業改善の取り組み ・（学部）授業改善のためのアンケート ・（アントレ）前期授業評価アンケート ・FD講演会開催（7/25）
9月	・北海道 FSDS フォーラム（主催：北海道地区 FD・SD 協議会） ・東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会（本学当番校） ・札幌市立高等学校の高大連携協定に係る連携事業
10月	・後期授業開始（9/25～）：遠隔授業サポート ・（大学院）FDアンケート（教員・院生対象）
11月	・学生論文賞第一次審査（プレゼンテーション） ・（アントレ）FD研修会 ・（アントレ）後期授業参観 ・（アントレ）授業評価アンケートの集計結果に基づく教員の自己評価
12月	・（学部）卒業年次調査 ・（学部）1年生終了時における学習等に関する状況調査 ・（アントレ）後期授業評価アンケート ・卒業生アンケート調査（2013（平成25）年度、2020（令和2）年度卒業生対象） ・学生論文賞最終審査・結果発表
1月	・（学部）授業改善のためのアンケート
3月	・学生論文賞表彰式 ・FD活動報告書作成

令和5年度 FD講演会

開催日時 | 令和5年7月25日(水) 15時00分～16時30分

参加者数 | 52名(小樽商科大学:31名, 北見工業大学:21名)

令和5年度のFD活動として、教育の内部質保証をテーマとしたFD講演会を教学IR室との共催で開催した。教育の質保証の取組の一つとして、学生の学修成果の可視化が求められている。教育支援部門においては、現在、学修成果可視化のための学位証書補足資料(通称:ディプロマ・サブリメント)の開発を進めている。今回の講演会では、北海道大学高等教育推進機の江本理恵教授をお招きし、前任校の岩手大学において開発した「I² Folio (アイフォリオ)」と呼ばれるポートフォリオを用いた学習成果の可視化の取組事例について紹介していただくとともに、今後、本学で学修成果の可視化に向けた取組を進めていく上でどのようなことに取り組むべきか、本学の現状を踏まえながら、ディスカッションを行った。なお、本講演会は、本学に加え、北見工業大学からも参加があった。



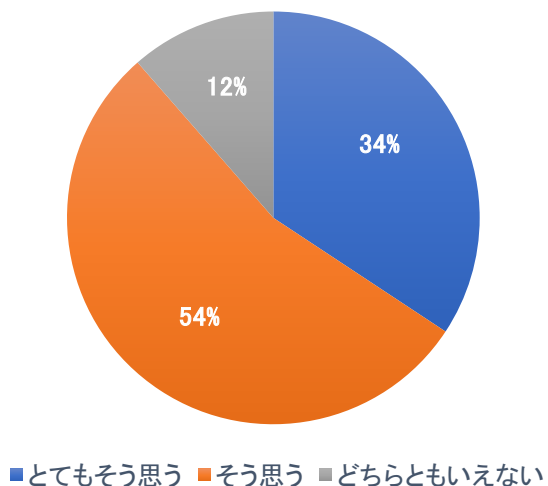
講演する北海道大学江本教授



会場の様子

<参加者のアンケート結果から>

Q. 今回のFD講演会に参加して良かった
(n=35)



Q. 今回のFD講演会についての感想をお願いします。(抜粋)

共感できる点がとても多かった。FDと同様、自身の研究分野(多言語社会に向けた英語教育)でも、理念と教育現場とでは乖離が大きい。この両者を有機的に結び付けようとしていることがわかるご講演であった

DP、CP、APを踏まえたプログラムレビューの結果を反映した”評価”の可視化が整理され、学生、教職員がすぐに見ることができ、その後の講義設計等の改善にも反映されているのはすばらしいと感じました。

大学が行うアンケートをやりっぱなしにせず、学生が自己評価や管理に使えるのはいいアイデアだと思います。商大でも同じようなことができるなら、是非私も利用したいです。

令和5年度
CGS教育支援部門スタッフ一覧

教育支援部門運営会議		
教育支援部門長		大津 晶
教育支援副部門長		田島 貴裕
教育支援副部門長		西出 崇
	CGS副センター長 (副学長(教育・入試・国際交流担当))	鈴木 将史
	学部教育開発専門部会長	石崎 香理
	大学院教育開発専門部会長	高橋 優季
	専門職大学院教育開発専門部会長	堺 昌彦
学部教育開発専門部会		
部会長		石崎 香理
	教育支援部門長	大津 晶
	CGS副センター長 (副学長(教育・入試・国際交流担当))	鈴木 将史
	教育支援副部門長	田島 貴裕
	教育支援副部門長	西出 崇
	学部教務委員会委員長	林 松国
		柴山 千里
		加賀田 和弘
		菅沼 真也子
		沼澤 政信
		羽村 貴史
大学院教育開発専門部会		
部会長		高橋 優季
	大学院現代商学専攻長	乙政 佐吉
	大学院現代商学専攻教務委員会委員長	中村 健一
		加賀田 和弘
		才原 慶道
		三浦 克宜
		中川 喜直
専門職大学院教育開発専門部会		
部会長		堺 昌彦
	大学院アントレプレナーシップ専攻長	篠本 智之
		泉 貴嗣
		筈井 俊輔
キャリア教育開発専門部会		
部会長	教育支援部門長	大津 晶
	教育支援副部門長	田島 貴裕
	教育支援副部門長	西出 崇
	CGS副センター長 (副学長(教育・入試・国際交流担当))	鈴木 将史
	学部教務委員会委員長	林 松国
	教務課長	川本 雅史
	学生支援課長	高玉 博史

編集

令和5年度小樽商科大学グローバル戦略推進センター教育支援部門運営会議

部門長	大津 晶	(社会情報学科教授)
副部門長	田島 貴裕	(教育支援部門教授)
副部門長	西出 崇	(教学 IR 室教授)
	鈴木 将史	(副学長)
	石崎 香理	(一般教育系准教授)
	高橋 優季	(言語センター教授)
	堺 昌彦	(アントレプレナーシップ専攻教授)

	川本 雅史	(教務課長)
	米川 憲司	(教務課課長補佐)
	河崎 智之	(教務課特定専門職サブマネジャー)
	藤井 哲之進	(CGS 技術専門職員)

ヘルメスの翼に—小樽商科大学 FD 活動報告書— 第 16 集

発行日 令和6年7月1日

発行所 国立大学法人北海道国立大学機構

小樽商科大学グローバル戦略推進センター教育支援部門

〒047-8501 小樽市緑3丁目5番21号

TEL : 0134-27-5240 / FAX : 0134-27-5238

E-mail : k-shien@office.otaru-uc.ac.jp